



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 本書の目的
 - 2.2. 対象読者
 - 2.3. 本書の構成
- 3. IM-LogicDesigner連携 について
 - 3.1. IM-LogicDesigner連携 とは
 - 3.2. Office変換 とは
 - 3.3. HTML変換(intra-mart画面) とは
 - 3.4. HTML変換(ワークフロー画面) とは
- 4. 注意点
 - 4.1. 共通
 - 4.2. HTML→PDF変換
- 5. タスク一覧
 - 5.1. Office変換
 - 5.2. HTML変換(intra-mart画面)
 - 5.3. HTML変換(ワークフロー画面)
- 6. チュートリアル
 - 6.1. Office変換
 - 6.2. HTML変換(ワークフロー画面)

変更年月日	変更内容
2026-04-01	初版
2026-10-01	第2版 下記を追加・変更しました。 ▪ 「IM-LogicDesigner連携 について」 ▪ 「IM-LogicDesigner連携 とは」の IM-LogicDesigner の画面イメージを変更 ▪ 「注意点」 ▪ 「URL へのアクセス時に表示されない情報は、PDF ファイルに出力されません」を追加 ▪ 「HTML→PDF変換 の実行方法によって、アクセスする際のHTTPメソッドが異なります」を追加 ▪ 「タスク一覧」 ▪ 「入力値」にHTTPメソッドに関する注意を追加 ▪ 「チュートリアル」の IM-LogicDesigner の画面操作に関する記述、および、画面イメージを変更

本書の目的

本書では IM-PDFAutoConverter for Accel Platform で提供されている IM-LogicDesigner連携 の機能概要と仕様について説明します。

対象読者

次の利用者を対象としています。

- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の IM-LogicDesigner連携 を利用する方

なお、IM-LogicDesigner連携 を利用するためには IM-LogicDesigner の機能や仕組みを理解している必要があります。

IM-LogicDesigner の詳細については、「[IM-LogicDesigner ユーザ操作ガイド](#)」を参照してください。

本書の構成

- [IM-LogicDesigner連携 について](#)

IM-LogicDesigner連携 の概要について説明します。

- [注意点](#)

IM-LogicDesigner連携 に関する注意点について説明します。

- [タスク一覧](#)

タスクの一覧と、各タスクについて説明します。

- [チュートリアル](#)

IM-LogicDesigner連携 を使用したPDFファイルの変換方法を説明します。

IM-LogicDesigner連携 とは

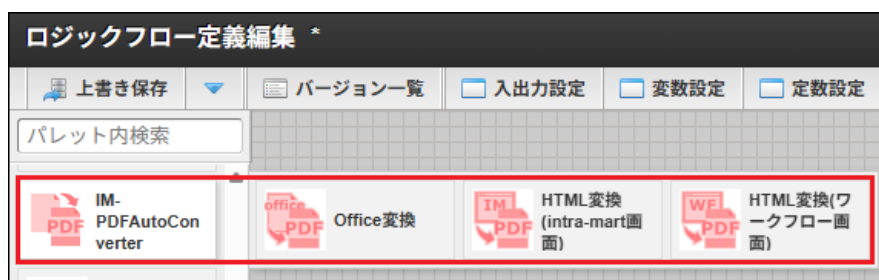
IM-LogicDesigner連携 は、 IM-LogicDesigner 上でPDFファイルの変換処理を作成するためのアプリケーションです。

IM-LogicDesigner連携 の主な特徴は次の通りです。

- プログラミングの知識不要で、GUI上の操作だけ（ノーコード）でPDFファイルの変換処理を作成できます。
- IM-LogicDesigner のタスクとして提供されるため、様々なアプリケーションから呼び出すことができます。
- Office系のファイル、 intra-mart Accel Platform の画面のPDF変換に対応しています。
- 出力するPDFファイルにセキュリティを付与できます。

IM-LogicDesigner連携 を導入すると次の項目が追加されます。

- 「ロジックフロー定義編集」画面のパレット
 - 「IM-PDFAutoConverter」
 - 「Office変換」
 - 「HTML変換(intra-mart画面)」
 - 「HTML変換(ワークフロー画面)」



Office変換 とは

Office変換 とは、Office系のファイルをPDFファイルに変換するタスクです。

HTML変換(intra-mart画面) とは

HTML変換(intra-mart画面) とは、変換ユーザのユーザコードを利用して、 intra-mart Accel Platform の画面（HTMLファイル）をPDFファイルに変換するタスクです。

本タスクは対象ユーザのログインセッション情報を必要としません。

HTML変換(ワークフロー画面) とは

HTML変換(ワークフロー画面) とは、変換ユーザのユーザコードを利用して、 intra-mart Accel Platform のワークフローの画面（HTMLファイル）をPDFファイルに変換するタスクです。

本タスクは対象ユーザのログインセッション情報を必要としません。

目次

- 共通
 - ファイルサイズの大きいPDFファイルは、出力処理に時間がかかる場合があります
 - 大量のPDF変換を指示した場合、タイムアウトが発生する可能性があります
- HTML→PDF変換
 - ベースURLの設定が必要です
 - PDF変換を行うまでの待機時間が短い場合、正常に変換されない可能性があります
 - IM-Workflow のコンテンツ画面をPDF変換する場合、遷移可能なURLを指定してください
 - URLへのアクセス時に表示されない情報は、PDFファイルに出力されません
 - HTML→PDF変換 の実行方法によって、アクセスする際のHTTPメソッドが異なります

共通

ファイルサイズの大きいPDFファイルは、出力処理に時間がかかる場合があります

ファイルサイズの大きいPDFファイルを作成する際、出力処理に時間がかかり、タスクのレスポンスとPDFファイルがディスク上に完全に書き出されるタイミングが大きく異なる場合があります。

サイズの大きいPDFファイルを作成する場合は、出力処理の時間を考慮し、十分な時間が経過した後に、出力されたPDFファイルにアクセスするようにしてください。

大量のPDF変換を指示した場合、タイムアウトが発生する可能性があります

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform に依頼された変換処理は、順番待ち（キュー）の状態となり、一度に大量のPDF変換を指示しても、次のように処理される仕組みです。

- Office系→PDF変換 : 1件ずつ処理される
- HTML→PDF変換 : 設定ファイルで設定された起動数ずつ処理される

そのため、大量のPDF変換を指示すると、順番待ちとなったファイルは指示開始から変換処理までに数分以上掛かることもあり、タイムアウトが発生する可能性があります。

大量のPDF変換を指示する場合は、上位アプリケーション側でタイムアウトまでの時間延長設定、または、タイムアウト時にリトライする仕組みなどの対応を検討してください。

IM-LogicDesigner連携 は、次のタイムアウトを利用します。

- Office系→PDF変換
 - 設定ファイル< pdfa-logic-config.xml >

項目名	説明
<before-timeout-sec>	変換前のタイムアウト時間（秒）を設定します。 PDF変換依頼を投げてから、PDF変換処理を開始するまでのタイムアウト時間を設定します。 タイムアウト時間を過ぎると、PDF変換依頼は削除され次の変換処理に移ります。
<timeout-sec>	変換後のタイムアウト時間（秒）を設定します。 PDF変換処理が開始してからのタイムアウト時間を設定します。 タイムアウト時間を過ぎると、変換処理は削除され次の変換処理に移ります。

項目名	説明
<trans-timeout-sec>	PDF変換サーバへのファイル転送のタイムアウト時間（ミリ秒）を設定します。 短すぎると結果が受け取れないため、設定する際は、setTimeoutSec(timeoutSec)の10倍以上など、できるだけ長く設定することを推奨します。

- HTML→PDF変換
 - 設定ファイル< htmltopdf-config.xml >

項目名	説明
<before-timeout-sec>	PDF変換が完了するまでの待機時間（秒）を設定します。 未設定の場合は設定ファイルから値を取得します。 未設定かつ、設定ファイルの値が存在しない場合は3600秒(1時間)待機します。



注意

<before-timeout-sec>にて設定した時間を超過した場合、タイムアウトエラーとして例外をスローしますが、既に実行済みの変換処理は継続します。

そのため、上記項目に設定する時間は、変換処理呼び出し側が待機する時間として扱ってください。



コラム

PDF変換処理のタイムアウトを変更した場合は、intra-mart Accel Platform のセッションタイムアウトについても確認してください。

PDF変換処理が完了する前に intra-mart Accel Platform のセッションタイムアウトが発生した場合、変換結果を受け取ることができません。

intra-mart Accel Platform のセッションタイムアウトの設定については、intra-mart Accel Platform のドキュメントを参照してください。

HTML→PDF変換

ベースURLの設定が必要です

HTML→PDF変換 のタスクを利用する場合、intra-mart Accel Platform のベースURLの設定が必要です。

ベースURLを設定していない場合、変換実行時にエラーが発生します。

PDF変換を行うまでの待機時間が短い場合、正常に変換されない可能性があります

HTML→PDF変換 において、画面表示後、PDF変換を行うまでの待機時間が短い場合、正常に変換されない可能性があります。

次の入力値を利用し、適切な待機時間を設定することを推奨します。

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
waitMillisecond	任意	integer	なし	画面表示後、PDF変換を行うまでの待機時間をミリ秒単位で設定します。 未設定の場合は設定ファイルから値を取得します。 未設定、かつ、設定ファイルの値が存在しない場合は5000ミリ秒(5秒)待機します。

URLを指定して IM-Workflow のコンテンツ画面をPDF変換する場合、遷移可能なURLを指定してください。

IM-Workflow のコンテンツ画面のURLについては、「[IM-Workflowの色々なコンテンツ画面へ遷移するURL](#)」を参照してください。

URLへのアクセス時に表示されない情報は、PDFファイルに出力されません

HTML→PDF変換 の変換処理は、対象となる画面へURLで実際にアクセスし、そのタイミングで実行されます。

そのため、アクセス時に表示されない（DB等に保存されていない）情報は、PDFファイルには出力されません。

HTML→PDF変換 の実行方法によって、アクセスする際のHTTPメソッドが異なります

HTML→PDF変換 は、変換時に対象画面へURLでアクセスし、アクセスした画面を対象に変換処理を実行しますが、変換処理の呼び出し方法によってアクセスする際のHTTPメソッドが異なります。

HTML→PDF変換 のタスクでは、内部でショートカットURLを使用しているためPOSTで実行されます。

そのため、変換対象画面に対して、明確にHTTPリクエストメソッドを指定するルーティングが設定されている場合、404エラー等で画面にアクセスできず、画面を正常に変換できない場合があります。

Office変換

入力値

```
inputFile <storage> *
outputFile <storage> *
stampName <string>
docInfo <object>
├ title <string>
├ subTitle <string>
├ author <string>
├ application <string>
└ keyword <string>
security <object>
├ openPassword <string>
├ securityPassword <string>
├ securityMode <integer>
├ print <integer>
├ edit <integer>
├ copy <integer>
└ addNote <integer>
fastWebView <boolean>
```

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
inputFile	必須	storage	なし	変換対象ファイル 必ずマッピングしてください。
outputFile	必須	storage	なし	出力PDFファイル 必ずマッピングしてください。 ファイルの拡張子が「.pdf」以外、または、拡張子が未指定の場合も、PDFファイルが出力されます。
stampName	任意	string	なし	PDF出力時に追加するスタンプ設定名
docInfo	任意	object	なし	PDF文書情報
title	任意	string	なし	タイトル
subTitle	任意	string	なし	サブタイトル
author	任意	string	なし	作成者
application	任意	string	なし	アプリケーション
keyword	任意	string	なし	キーワード
security	(※1)	object	なし	PDFセキュリティ情報
openPassword	任意	string	なし	オープンパスワード
securityPassword	任意	string	なし	セキュリティパスワード
securityMode	(※1)	integer	なし	PDFセキュリティの暗号化レベル 0 : 40bit RC4 1 : 128bit RC4

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
print	(※1)	integer	なし	印刷セキュリティ 40bit RC4 の場合 0 : 許可しない 1 : 許可する 128bit RC4 の場合 0 : 許可しない 1 : 低画質のみ許可する 2 : 許可する
edit	(※1)	integer	なし	編集セキュリティ 0 : 許可しない 1 : 許可する
copy	(※1)	integer	なし	コピーセキュリティ 0 : 許可しない 1 : 許可する
addNote	(※1)	integer	なし	注釈追記セキュリティ 40bit RC4 の場合 0 : 許可しない 1 : 許可する 128bit RC4 の場合 0 : 許可しない 1 : アセンブリを許可する 2 : フォーム入力を許可する 3 : フォーム入力と注釈追加を許可する 4 : 許可する
fastWebView	任意	boolean	なし	Web最適化の有無 最適化する : true 最適化しない : false 未設定の場合はfalseが適用されます。

※1 : セキュリティ情報を設定する場合は必須です。



コラム

IM-LogicDesigner の画面上では、アルファベット順に表示されます。

返却値

outputFile <storage>

項目名	型	配列/リスト	説明
outputFile	storage	なし	出力PDFファイル

HTML変換(intra-mart画面)

入力値

```

url <string> *
userCd <string> *
outputFile <storage> *
paperSize <object>
├ width <double>
└ height <double>
margin <object>
├ top <double>
├ bottom <double>
├ left <double>
└ right <double>
pageRange <string>
scale <double>
security <object>
├ openPassword <string>
├ securityPassword <string>
├ securityMode <integer>
├ print <integer>
├ edit <integer>
├ copy <integer>
└ addNote <integer>
fastWebView <boolean>
isOutputBackgroundColor <boolean>
waitMillisecond <integer>

```

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
url	必須	string	なし	変換対象画面の相対パス（コンテキストルート以降のURL） 必ずマッピングしてください。
userCd	必須	string	なし	変換対象画面へアクセスを行うユーザのユーザコード 必ずマッピングしてください。
outputFile	必須	storage	なし	出力PDFファイル 必ずマッピングしてください。 ファイルの拡張子が「.pdf」以外、または、拡張子が未指定の場合も、PDFファイルが出力されます。
paperSize	(※1)	object	なし	PDFの用紙サイズ
width	(※1)	double	なし	用紙サイズの幅（1～5080mm） 未設定の場合は設定ファイルから値を取得します。 未設定、かつ、設定ファイルの値が存在しない場合は 210mm*297mm（A4縦）で出力します。 なお、上記範囲内でも設定されたサイズが極端に小さい場合は、エラーが発生する場合があります。

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
height	(※1)	double	なし	用紙サイズの高さ（1～5080mm） 未設定の場合は設定ファイルから値を取得します。 未設定、かつ、設定ファイルの値が存在しない場合は210mm*297mm（A4縦）で出力します。 なお、上記範囲内でも設定されたサイズが極端に小さい場合は、エラーが発生する場合があります。
margin	(※2)	object	なし	PDFの余白
top	(※2)	double	なし	上側の余白（mm単位）
bottom	(※2)	double	なし	下側の余白（mm単位）
left	(※2)	double	なし	左側の余白（mm単位）
right	(※2)	double	なし	右側の余白（mm単位）
pageRange	任意	string	なし	PDFへ出力するページ範囲 例：“1-5, 8, 11-13” 未設定の場合は全ページ出力されます。
scale	任意	double	なし	ページの拡大率（0.1～2.0） 未設定の場合は1.0（原寸大）が適用されます。
security	(※3)	object	なし	PDFセキュリティ情報
openPassword	任意	string	なし	オープンパスワード
securityPassword	任意	string	なし	セキュリティパスワード
securityMode	(※3)	integer	なし	PDFセキュリティの暗号化レベル 0：40bit RC4 1：128bit RC4 2：128bit AES
print	(※3)	integer	なし	印刷セキュリティ 40bit RC4 の場合 0：許可しない 1：許可する 128bit RC4 ／ 128bit AES の場合 0：許可しない 1：低画質のみ許可する 2：許可する
edit	(※3)	integer	なし	編集セキュリティ 0：許可しない 1：許可する
copy	(※3)	integer	なし	コピーセキュリティ 0：許可しない 1：許可する

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
addNote	(※3)	integer	なし	注釈追記セキュリティ 40bit RC4 の場合 0 : 許可しない 1 : 許可する 128bit RC4 / 128bit AES の場合 0 : 許可しない 1 : アセンブリを許可する 2 : フォーム入力を許可する 3 : フォーム入力と注釈追加を許可する 4 : 許可する
fastWebView	任意	boolean	なし	Web最適化の有無 最適化する : true 最適化しない : false 未設定の場合はfalseが適用されます。
isOutputBackgroundColor	任意	boolean	なし	背景色の出力有無 出力する : true 出力しない : false 未設定の場合はtrueが適用されます。
waitMillisecond	任意	integer	なし	画面表示後、PDF変換を行うまでの待機時間（ミリ秒単位） 未設定の場合は設定ファイルから値を取得します。 未設定、かつ、設定ファイルの値が存在しない場合は5000ミリ秒(5秒)待機します。

※1 : 入力値にて用紙サイズを設定する場合は必須です。

※2 : 余白を設定する場合は必須です。

※3 : セキュリティ情報を設定する場合は必須です。



コラム

IM-LogicDesigner の画面上では、アルファベット順に表示されます。



注意

HTML→PDF変換 は、変換時に対象画面へURLでアクセスし、アクセスした画面を対象に変換処理を実行しますが、変換処理の呼び出し方法によってアクセスする際のHTTPメソッドが異なります。

HTML→PDF変換 の当該タスクでは、項目「url」で指定した値を基に内部でショートカットURLを使用しているためPOSTで実行されます。

そのため、変換対象画面に対して、明確にHTTPリクエストメソッドを指定するルーティングが設定されている場合、404エラー等で画面にアクセスできず、画面を正常に変換できない場合があります。

outputFile <storage>

項目名	型	配列/リスト	説明
outputFile	storage	なし	出力PDFファイル

HTML変換(ワークフロー画面)

入力値

```

systemMatterId <string> *
userDataId <string> *
userCd <string> *
outputFile <storage> *
paperSize <object>
├ width <double>
└ height <double>
margin <object>
├ top <double>
├ bottom <double>
├ left <double>
└ right <double>
pageRange <string>
scale <double>
security <object>
├ openPassword <string>
├ securityPassword <string>
├ securityMode <integer>
├ print <integer>
├ edit <integer>
├ copy <integer>
└ addNote <integer>
fastWebView <boolean>
isOutputBackgroundColor <boolean>
waitMillisecond <integer>

```

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
systemMatterId	必須	string	なし	ワークフロー案件情報のシステム案件ID 必ずマッピングしてください。
userDataId	必須	string	なし	ワークフロー案件情報のユーザデータID 必ずマッピングしてください。
userCd	必須	string	なし	変換対象画面へアクセスを行うユーザのユーザコード 必ずマッピングしてください。
outputFile	必須	storage	なし	出力PDFファイル 必ずマッピングしてください。 ファイルの拡張子が「.pdf」以外、または、拡張子が未指定の場合も、PDFファイルが出力されません。

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
paperSize	(※1)	object	なし	PDFの用紙サイズ
width	(※1)	double	なし	用紙サイズの幅（1～5080mm） 未設定の場合は設定ファイルから値を取得します。 未設定、かつ、設定ファイルの値が存在しない場合は 210mm*297mm（A4縦）で出力します。 なお、上記範囲内でも設定されたサイズが極端に小さい場合は、エラーが発生する場合があります。
height	(※1)	double	なし	用紙サイズの高さ（1～5080mm） 未設定の場合は設定ファイルから値を取得します。 未設定、かつ、設定ファイルの値が存在しない場合は 210mm*297mm（A4縦）で出力します。 なお、上記範囲内でも設定されたサイズが極端に小さい場合は、エラーが発生する場合があります。
margin	(※2)	object	なし	PDFの余白
top	(※2)	double	なし	上側の余白（mm単位）
bottom	(※2)	double	なし	下側の余白（mm単位）
left	(※2)	double	なし	左側の余白（mm単位）
right	(※2)	double	なし	右側の余白（mm単位）
pageRange	任意	string	なし	PDFへ出力するページ範囲 例：“1-5, 8, 11-13” 未設定の場合は全ページ出力されます。
scale	任意	double	なし	ページの拡大率（0.1～2.0） 未設定の場合は1.0（原寸大）が適用されます。
security	(※3)	object	なし	PDFセキュリティ情報
openPassword	任意	string	なし	オープンパスワード
securityPassword	任意	string	なし	セキュリティパスワード
securityMode	(※3)	integer	なし	PDFセキュリティの暗号化レベル 0：40bit RC4 1：128bit RC4 2：128bit AES

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
print	(※3)	integer	なし	印刷セキュリティ 40bit RC4 の場合 0 : 許可しない 1 : 許可する 128bit RC4 / 128bit AES の場合 0 : 許可しない 1 : 低画質のみ許可する 2 : 許可する
edit	(※3)	integer	なし	編集セキュリティ 0 : 許可しない 1 : 許可する
copy	(※3)	integer	なし	コピーセキュリティ 0 : 許可しない 1 : 許可する
addNote	(※3)	integer	なし	注釈追記セキュリティ 40bit RC4 の場合 0 : 許可しない 1 : 許可する 128bit RC4 / 128bit AES の場合 0 : 許可しない 1 : アセンブリを許可する 2 : フォーム入力を許可する 3 : フォーム入力と注釈追加を許可する 4 : 許可する
fastWebView	任意	boolean	なし	Web最適化の有無 最適化する : true 最適化しない : false 未設定の場合はfalseが適用されます。
isOutputBackgroundColor	任意	boolean	なし	背景色の出力有無 出力する : true 出力しない : false 未設定の場合はtrueが適用されます。
waitMillisecond	任意	integer	なし	画面表示後、PDF変換を行うまでの待機時間（ミリ秒単位） 未設定の場合は設定ファイルから値を取得します。 未設定、かつ、設定ファイルの値が存在しない場合は5000ミリ秒(5秒)待機します。

※1 : 入力値にて用紙サイズを設定する場合は必須です。

※2 : 余白を設定する場合は必須です。

※3 : セキュリティ情報を設定する場合は必須です。



コラム

IM-LogicDesigner の画面上では、アルファベット順に表示されます。

返却値

outputFile <storage>

項目名	型	配列/リスト	説明
outputFile	storage	なし	出力PDFファイル

Office変換

概要

本チュートリアルでは、「Office変換」タスクを使用した IM-LogicDesigner のロジックフローを作成し、ロジックフローのデバッグ機能にて実行することで、Microsoft Office 系ファイルをPDFファイルに変換します。

前提条件

本チュートリアルを進めるにあたり、次の事前準備が行われていることが前提となります。

- 2026 Spring 以降のバージョンの IM-PDFAutoConverter for Accel Platform （Office系→PDF変換、ジョブ、IM-LogicDesigner連携）のセットアップが完了していること。
- ジョブスケジューラのセットアップが完了していること。
- IM-LogicDesigner のセットアップが完了していること。
- intra-mart Accel Platform のテナント環境セットアップが完了していること。
- 次のzipファイルをダウンロードし、解凍してください。

< [office_ld_tutorial.zip](#) >

解凍したファイルの構成は、次の通りです。

フォルダ名／ファイル名	説明
import/	Office変換 インポート関連フォルダ
office_ld_flow.zip	チュートリアル用フロー定義の定義情報ファイル
data/	Office変換 データ関連フォルダ
somu_tatekae.docx	変換対象ファイル

< import/office_ld_flow.zip >を、IM-LogicDesigner のインポート画面からインポートしてください。

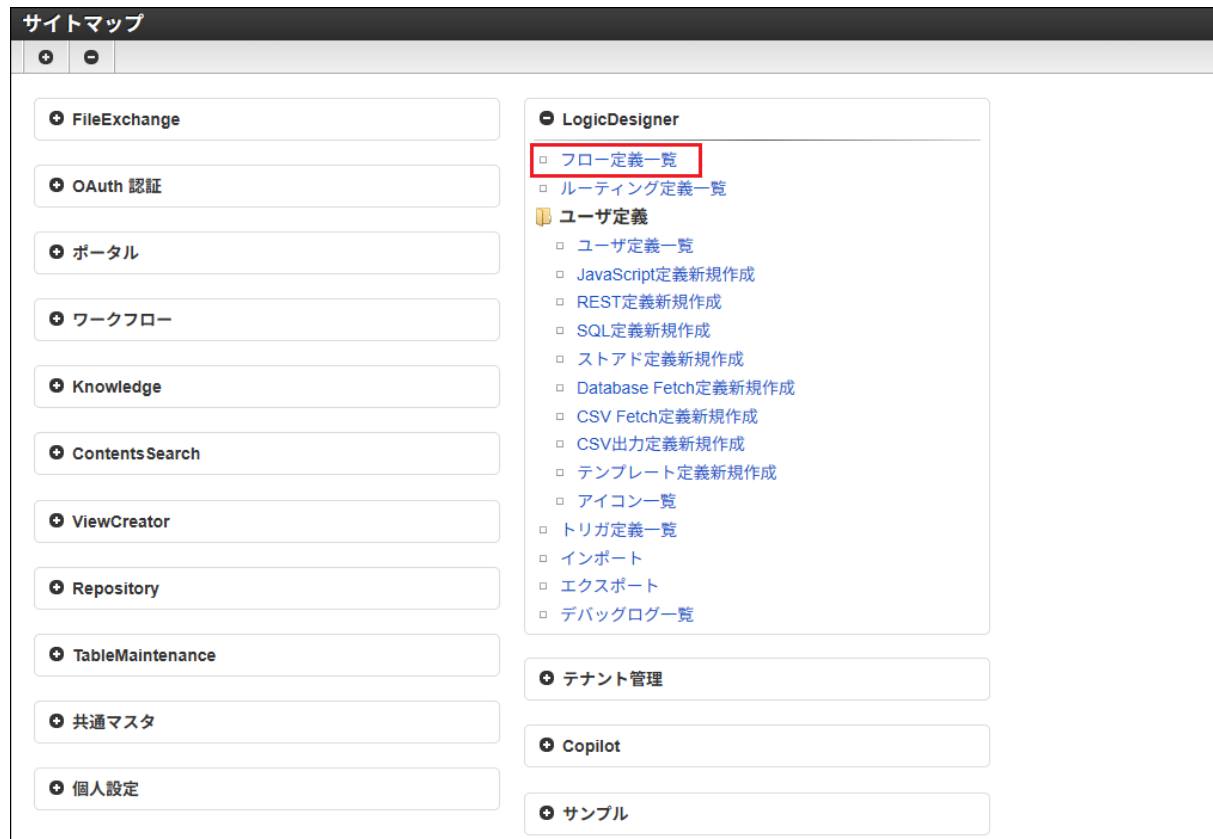
実践

次の手順に沿って、チュートリアルを進めます。

ロジックフロー定義の作成

タスクを配置する

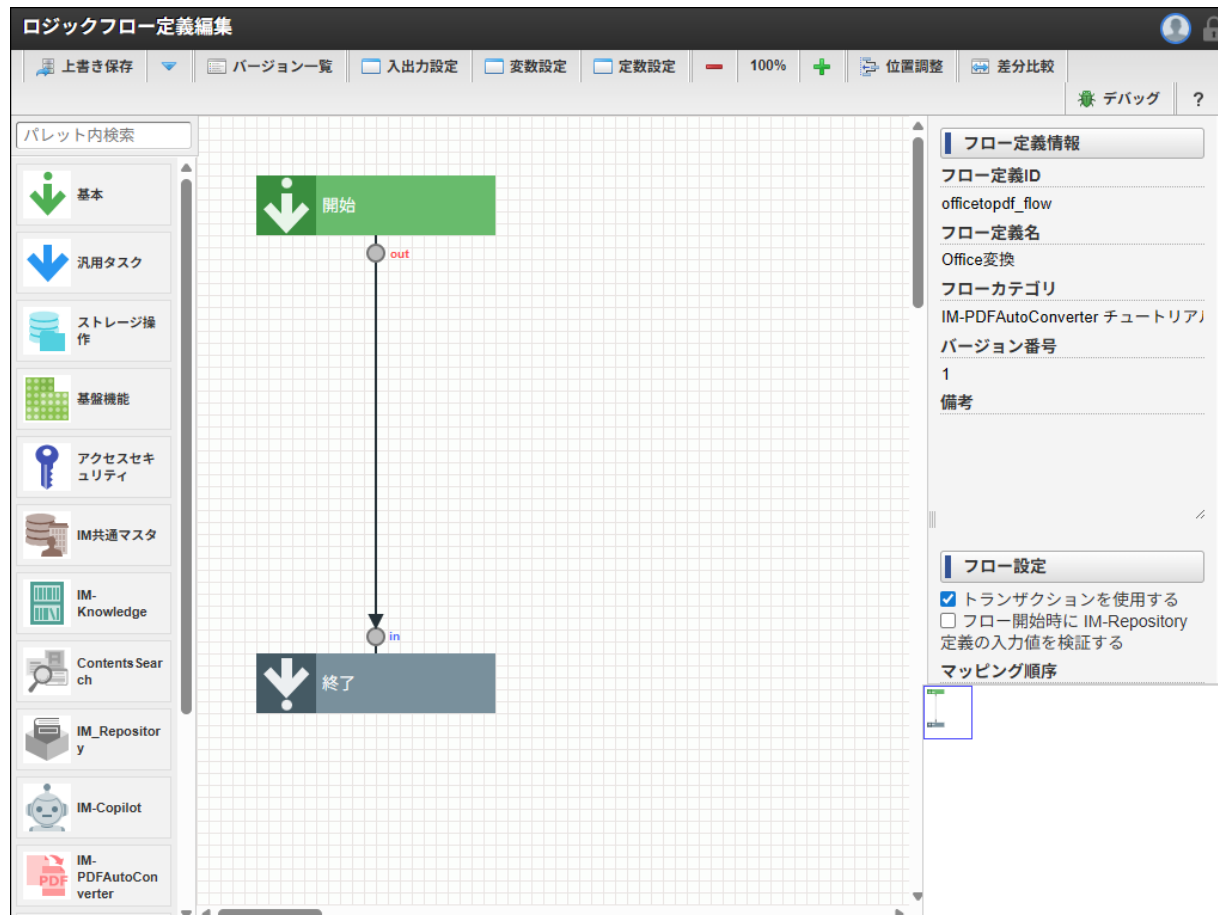
1. 「サイトマップ」 - 「LogicDesigner」 - 「フロー定義一覧」をクリックします。



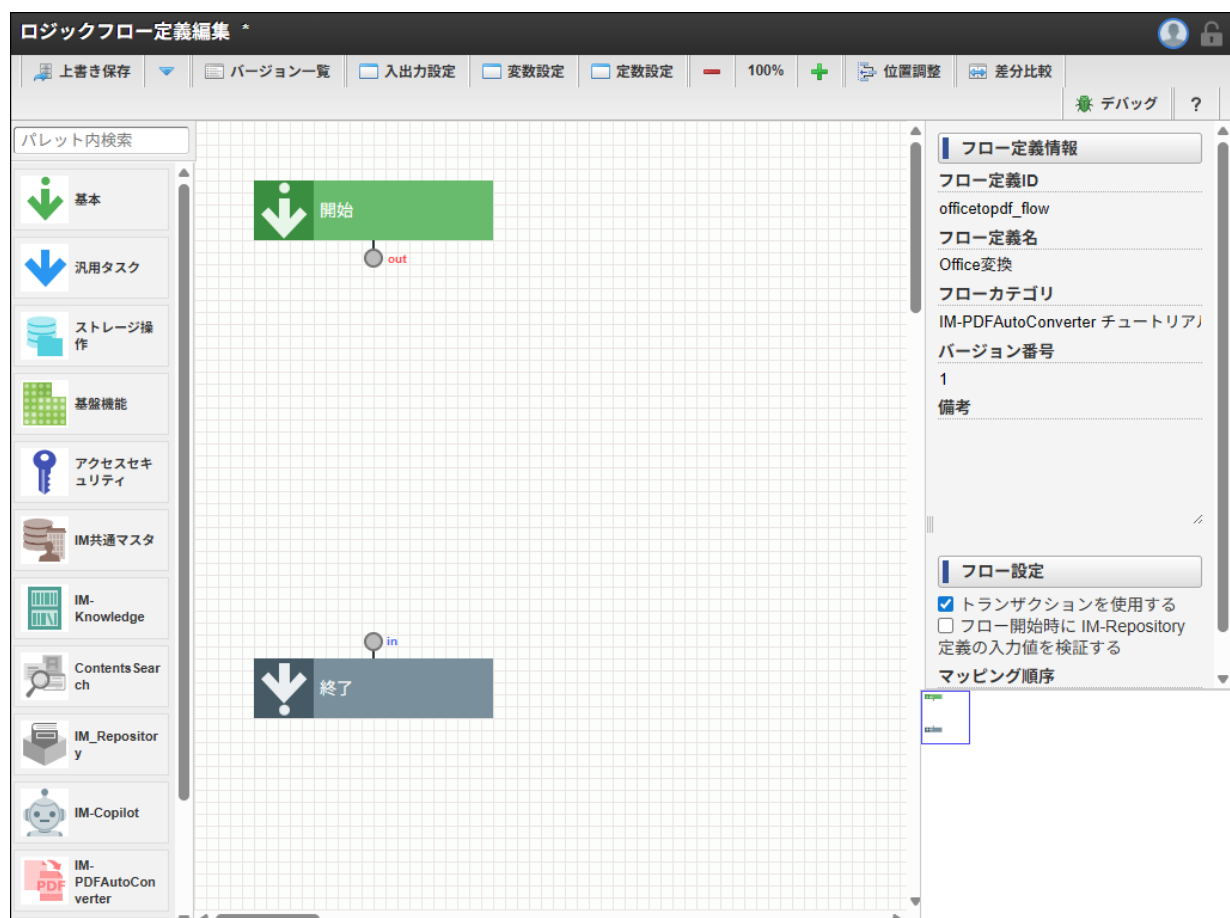
2. 「IM-PDFAutoConverter チュートリアル」から「Office変換」を選択し、「フロー定義編集」をクリックします。



「ロジックフロー定義編集」画面が開きます。



3. 「開始」制御要素と「終了」制御要素に引かれている線を削除します。



4. パレット内から「IM-PDFAutoConverter」-「Office変換」をクリックします。



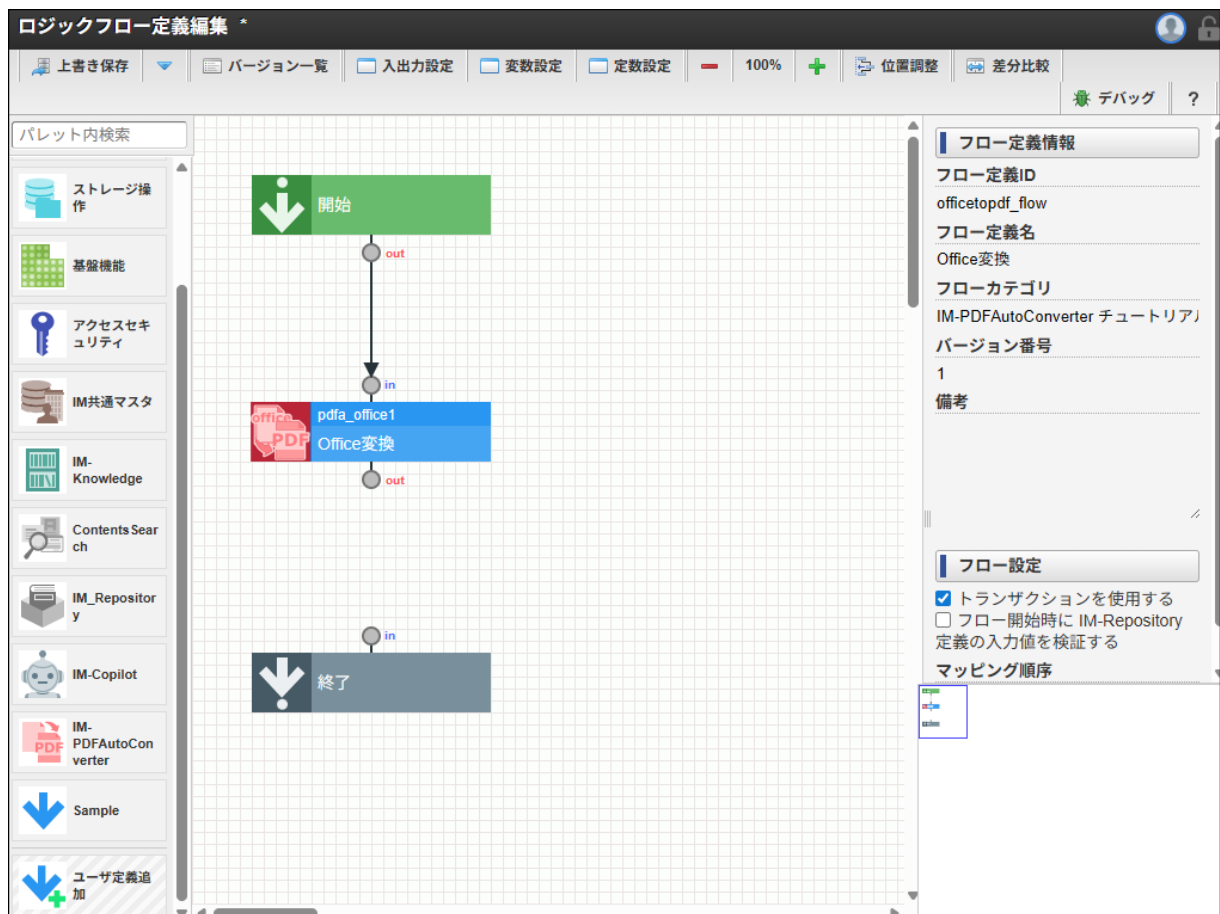
タスクがフロー編集画面上に追加されます。



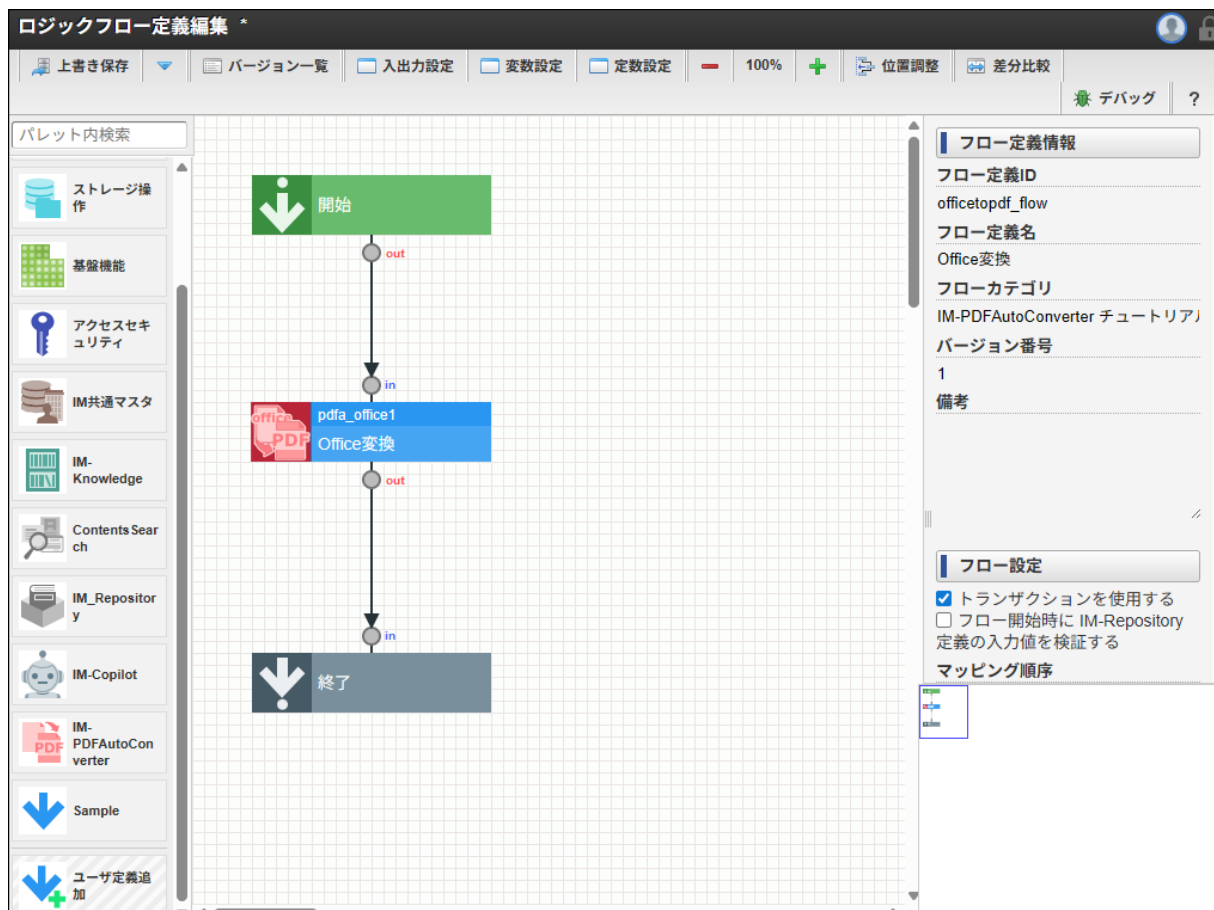
5. 「Office変換」タスクを、「開始」制御要素と「終了」制御要素の間に移動します。



6. 「開始」制御要素から「Office変換」タスクに線を引きます。

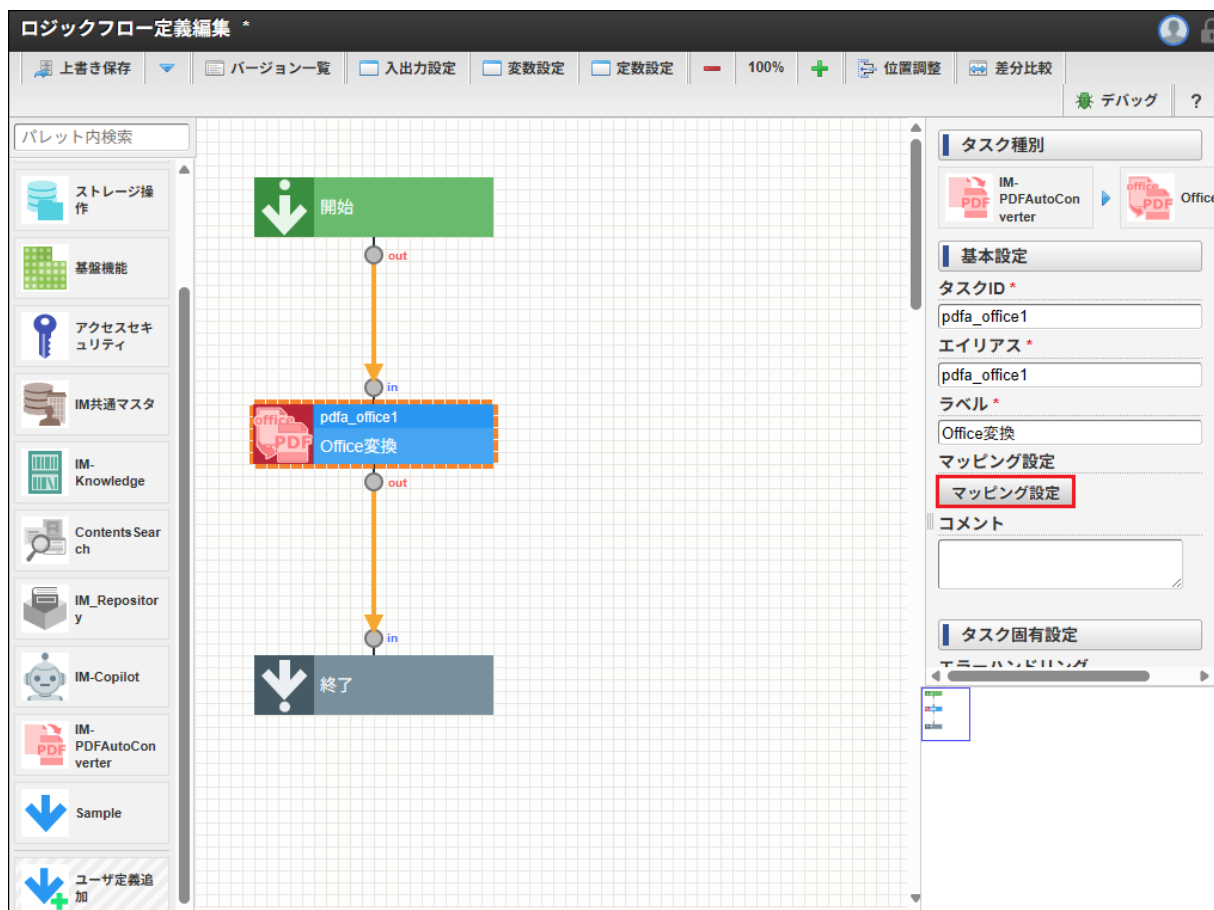


7. 「Office変換」タスクから「終了」制御要素に線を引きます。

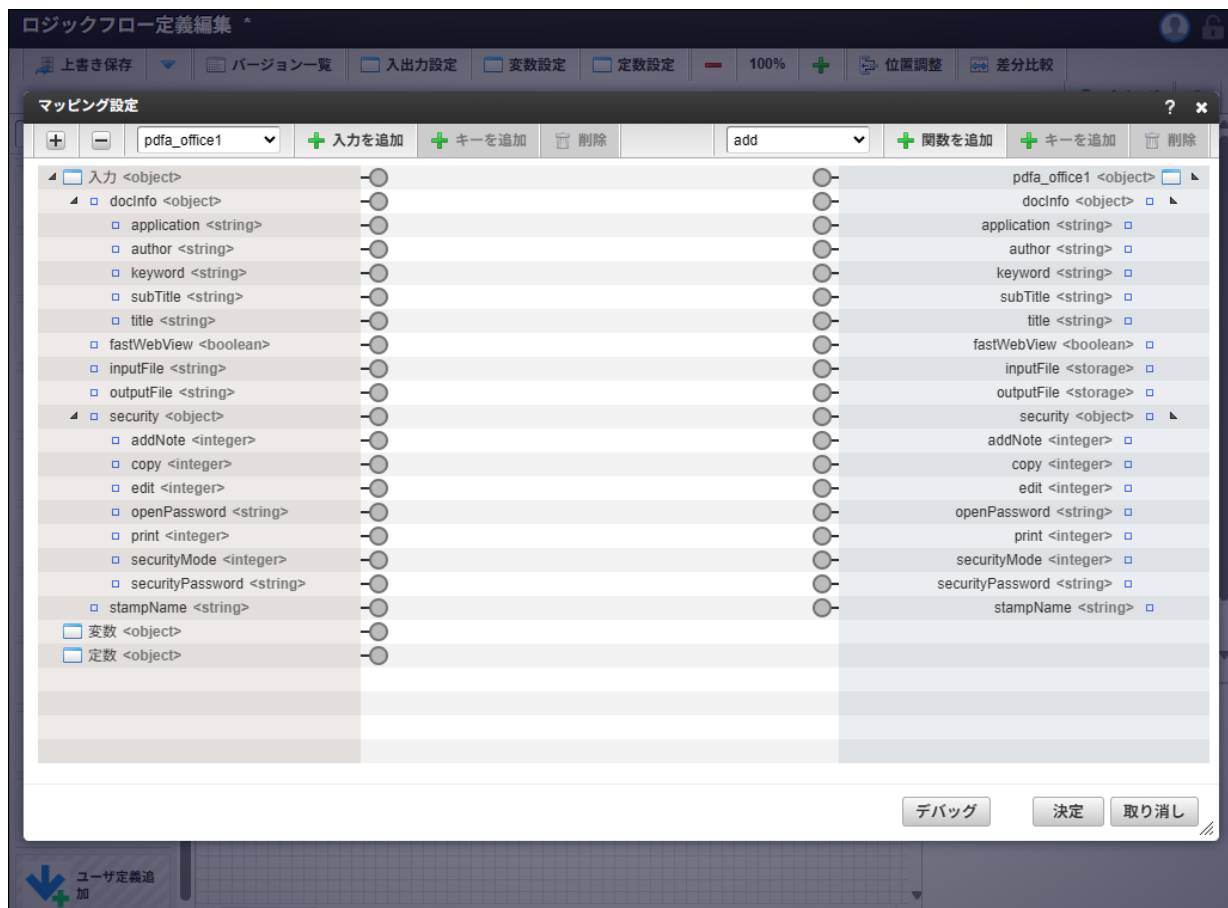


マッピングの設定を行う

1. 「Office変換」タスクをクリックし、プロパティ画面から「マッピング設定」をクリックします。

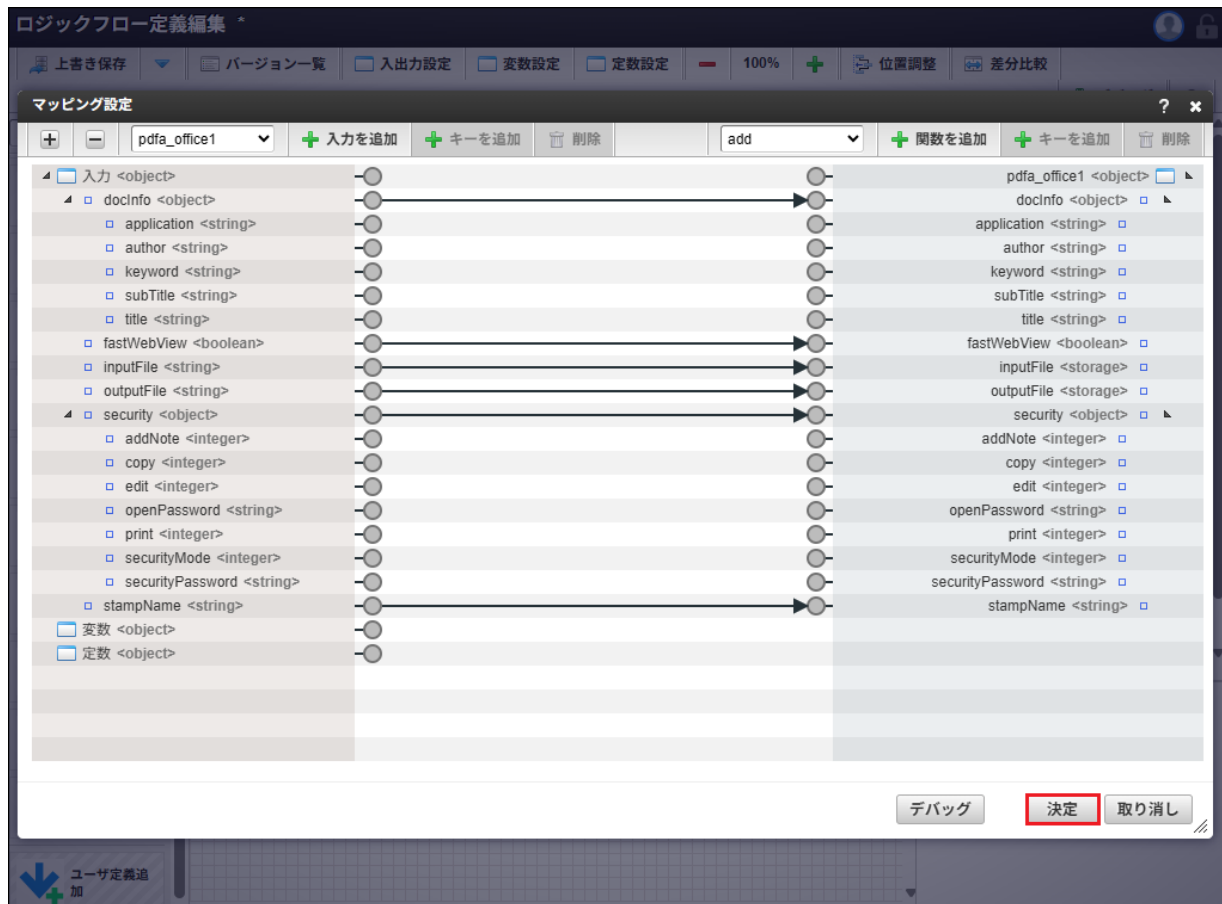


「マッピング設定」画面が開きます。

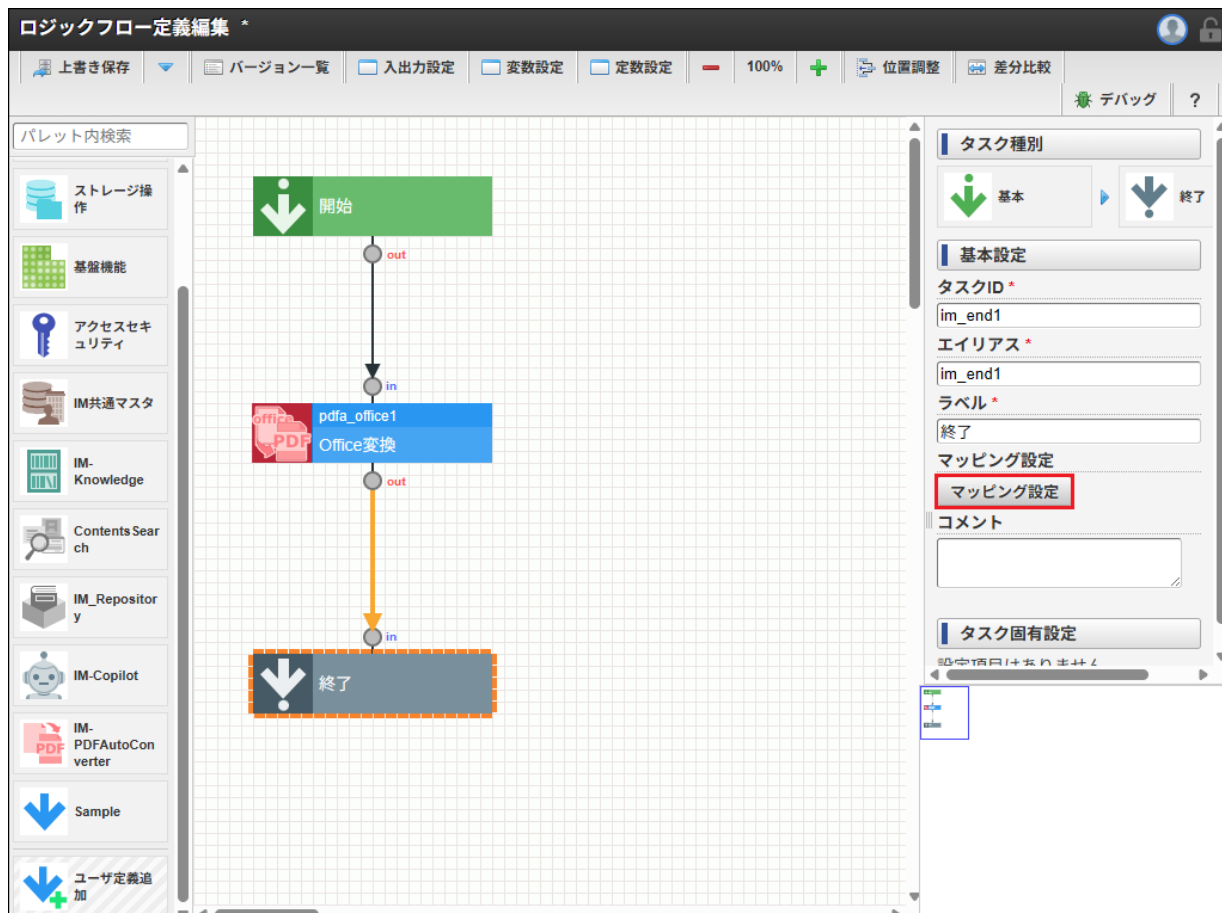


2. 次の通りにマッピングし、「決定」をクリックします。

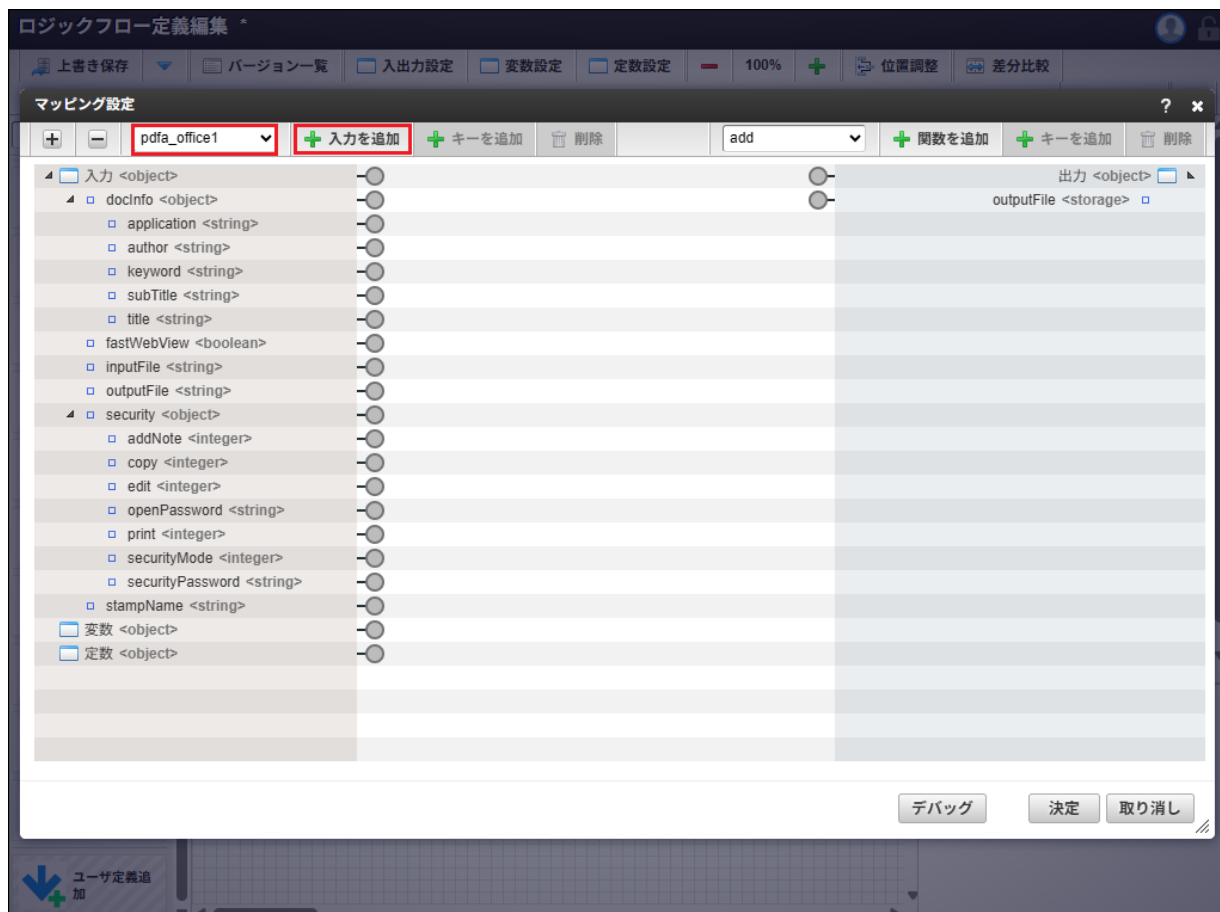
始点 (入力 < object >)	終点 (pdfa_office1 < object >)
docInfo < object >	docInfo < object >
fastWebView < boolean >	fastWebView < boolean >
inputFile < string >	inputFile < storage >
outputFile < string >	outputFile < storage >
security < object >	security < object >
stampName < string >	stampName < string >



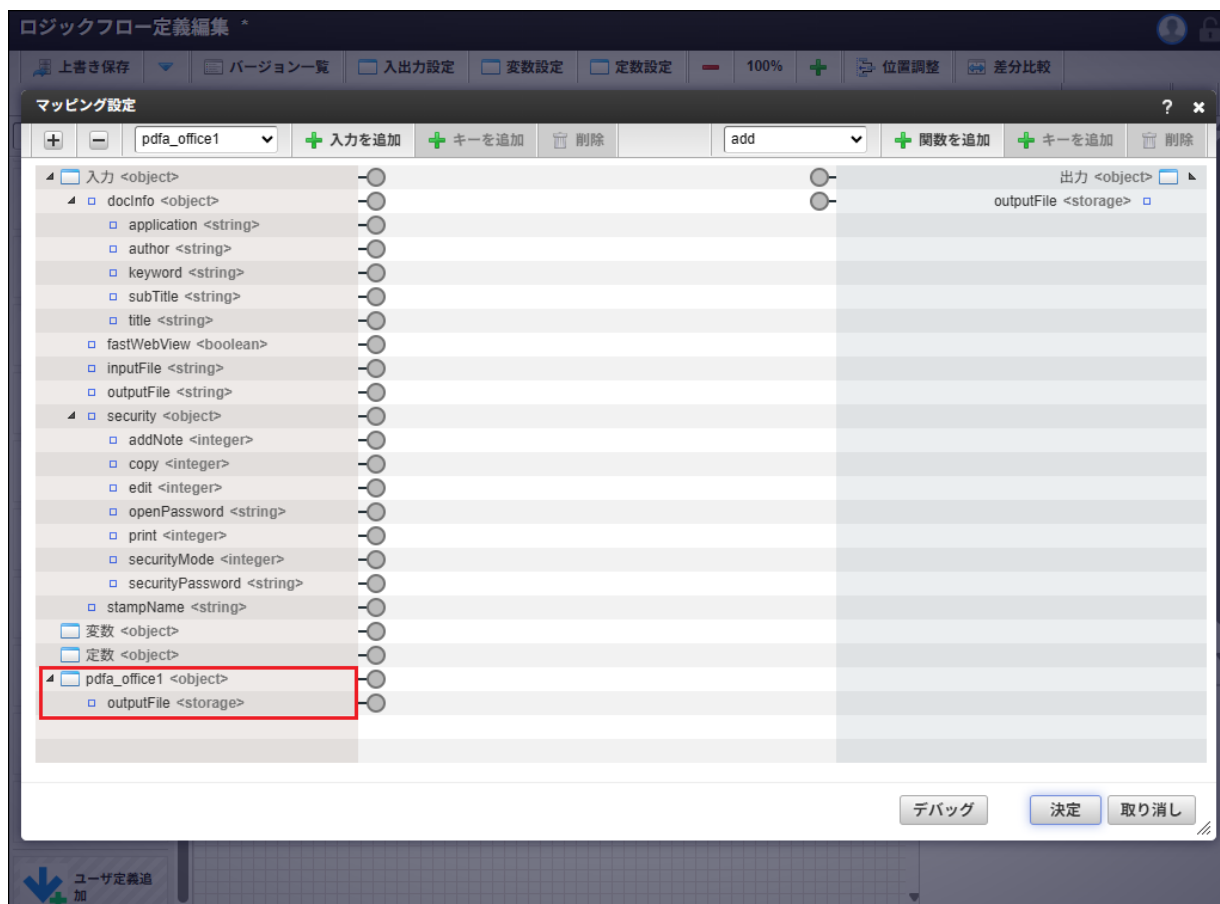
3. 「終了」制御要素をクリックし、プロパティ画面から「マッピング設定」をクリックします。



4. 画面左上のセレクトボックスから「pdfa_office1」を選択し、「入力を追加」をクリックします。



「pdfa_office1」の項目が追加されます。

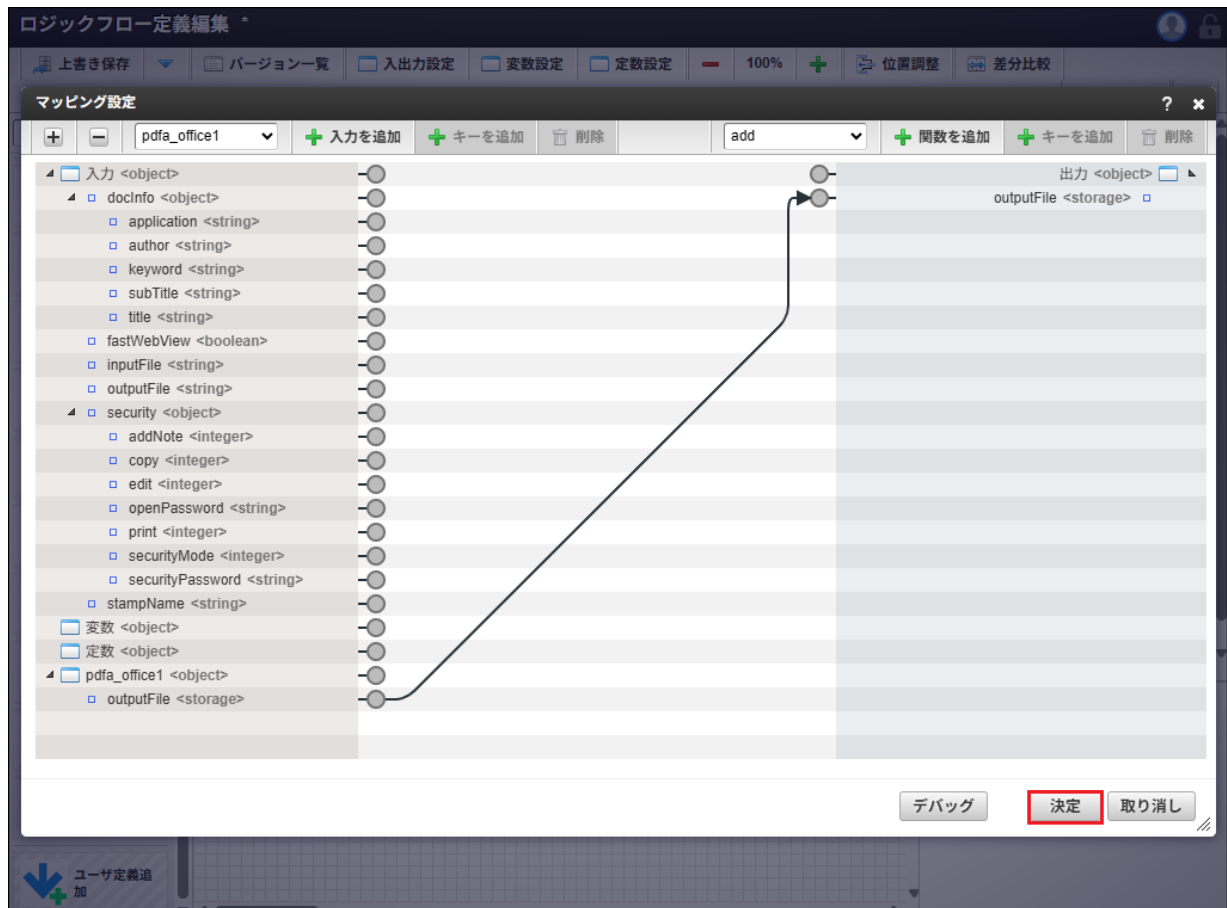


5. 次の通りにマッピングし、「決定」をクリックします。

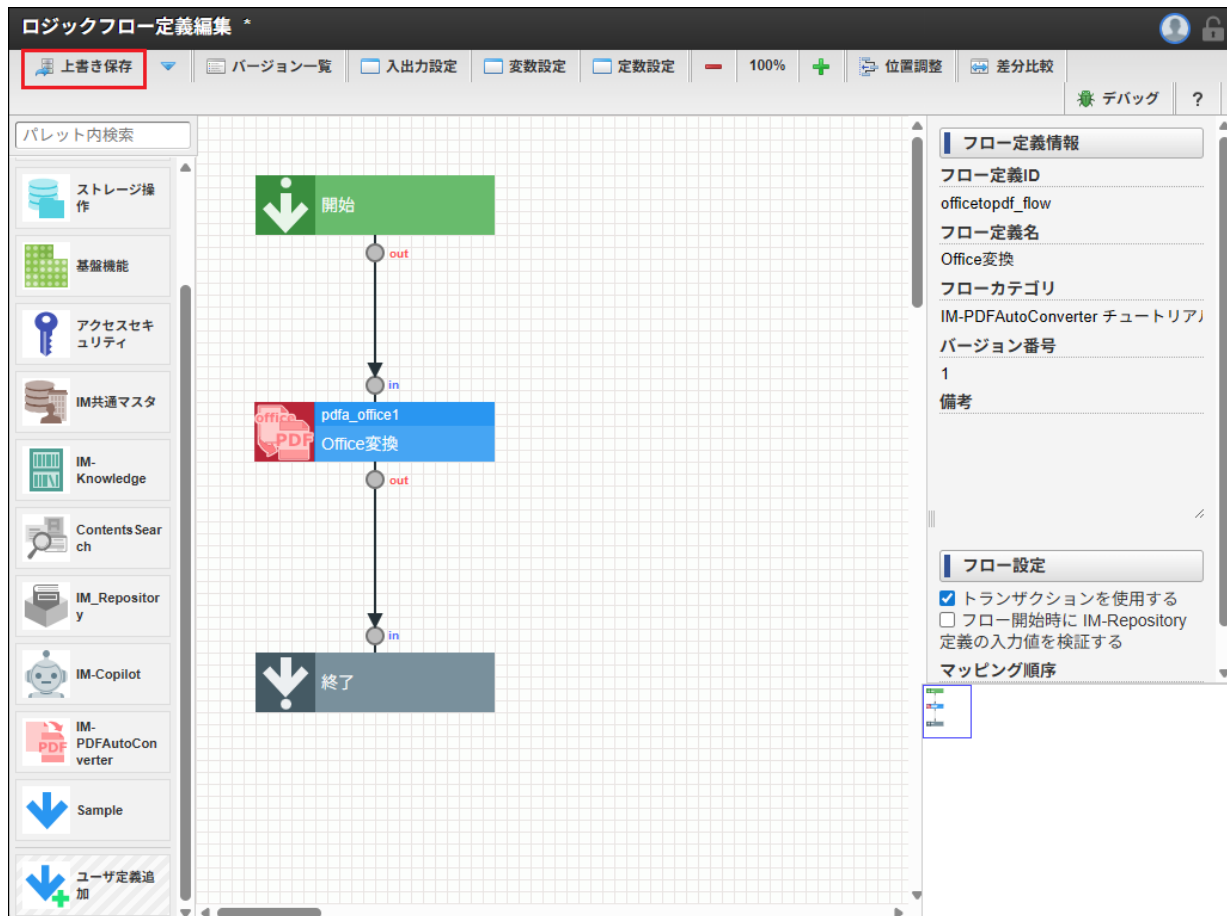
始点 (pdfa_office1 < object >) 終点 (出力 < object >)

- outputFile < storage >

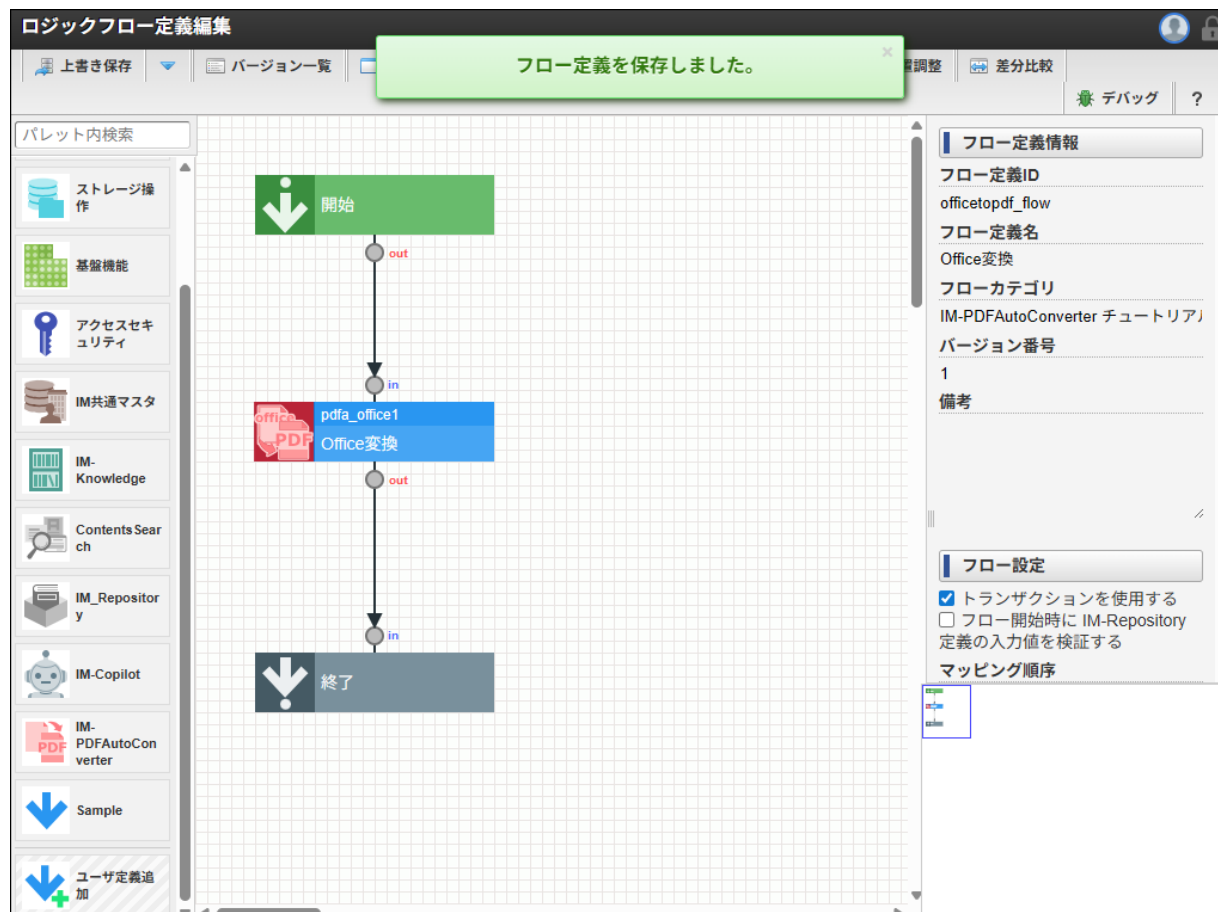
- outputFile < storage >



6. 「上書き保存」をクリックします。



フロー定義が保存されます。



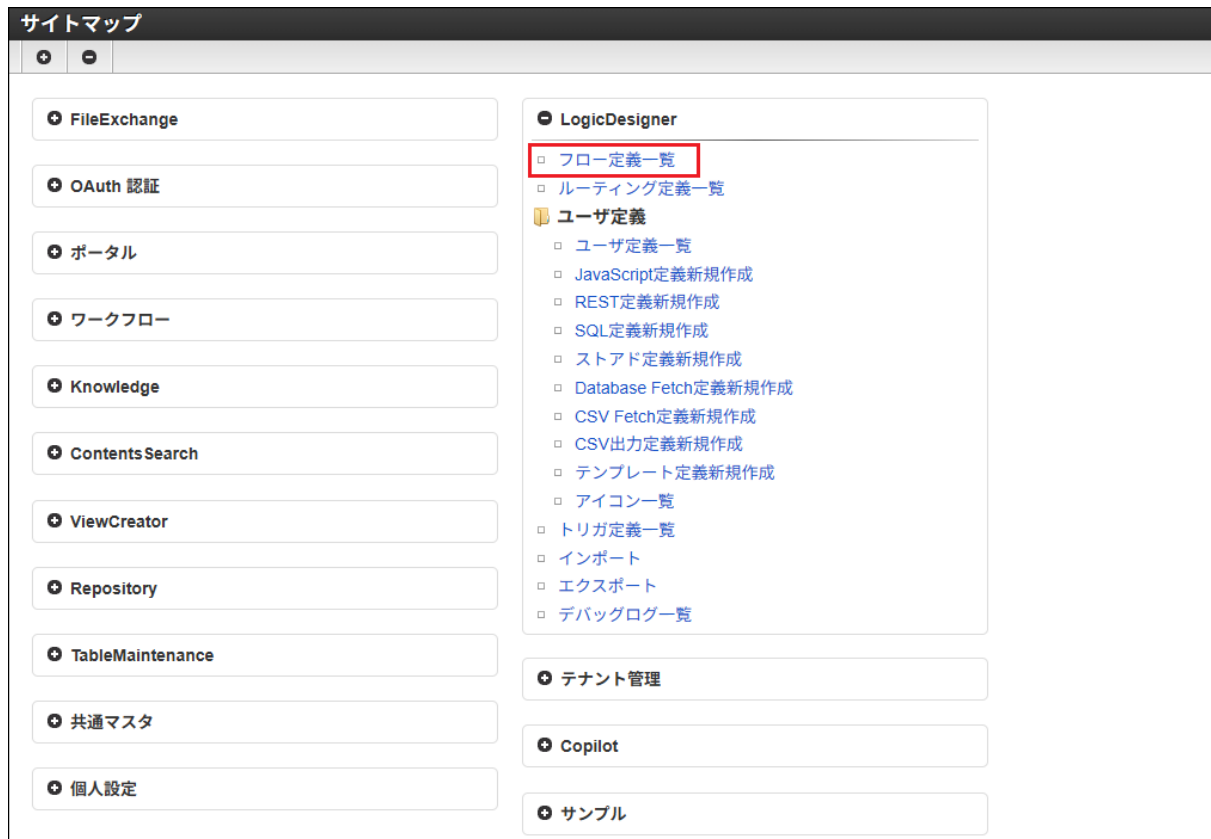
PDFファイルへの変換

変換対象ファイルを設置する

1. < %PUBLIC_STORAGE_PATH% /pdfa/tutorial/officetopdf/ld >ディレクトリを作成します。
2. < data >フォルダを< %PUBLIC_STORAGE_PATH% /pdfa/tutorial/officetopdf/ld >配下に設置します。

ロジックフロー定義のデバッグ画面を開く

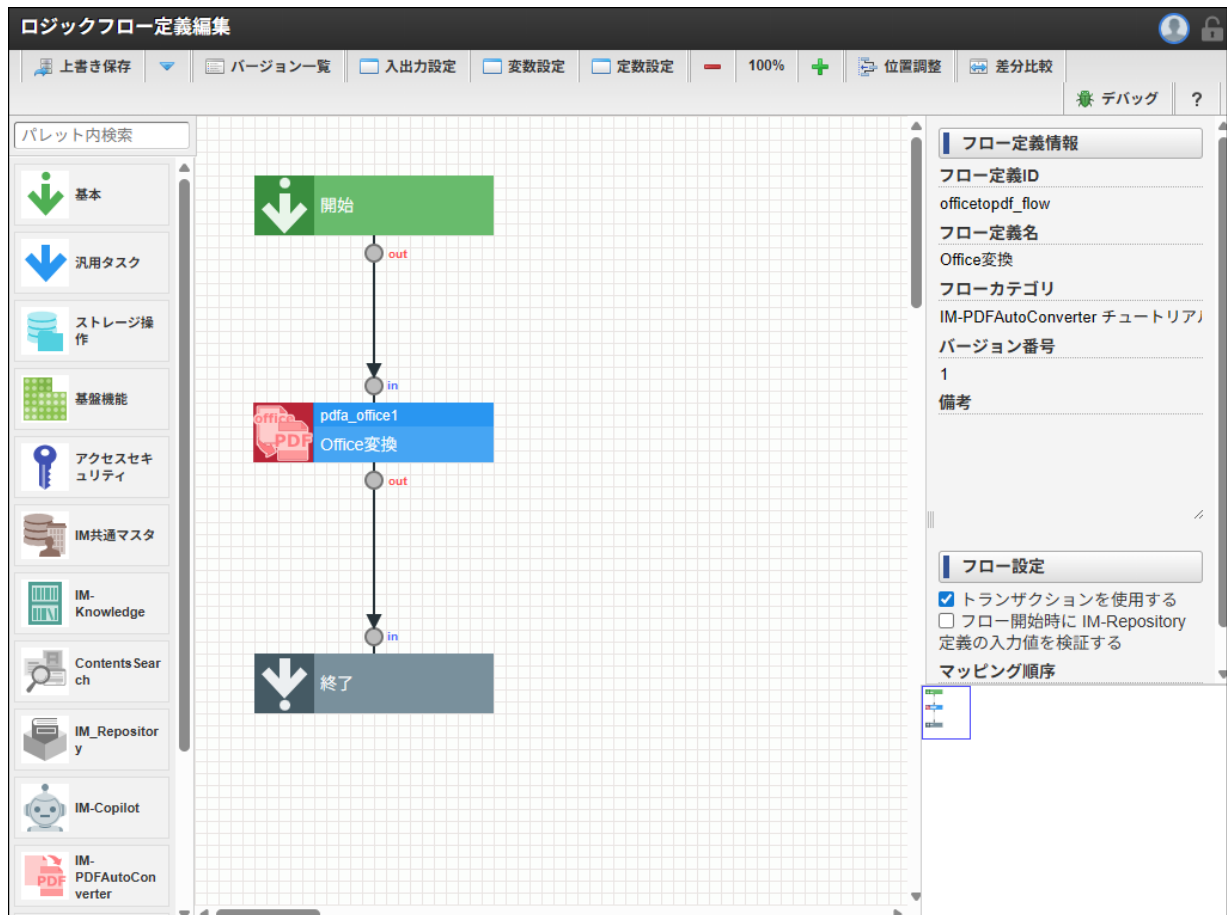
1. 「サイトマップ」 - 「LogicDesigner」 - 「フロー定義一覧」をクリックします。



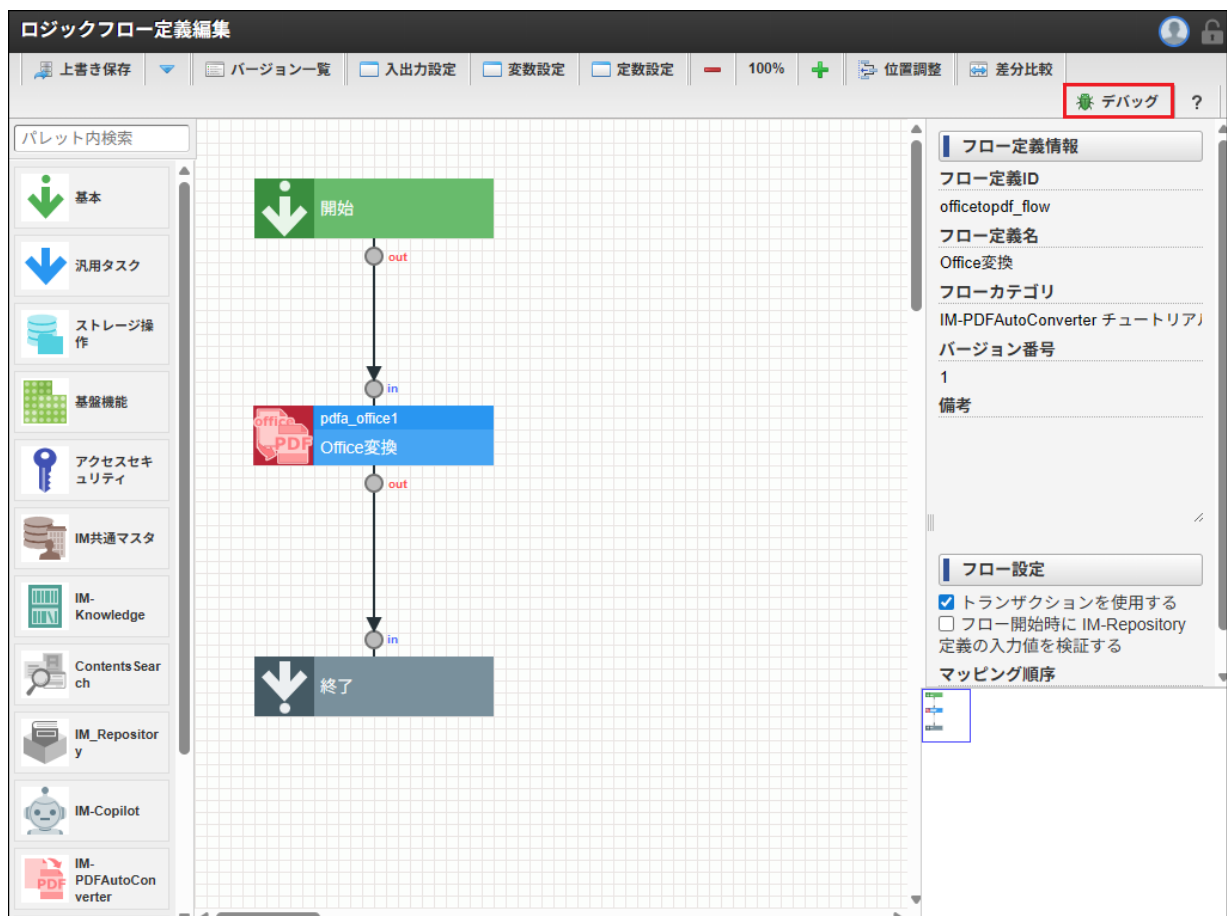
2. 「IM-PDFAutoConverter チュートリアル」から「Office変換」を選択し、「フロー定義編集」をクリックします。



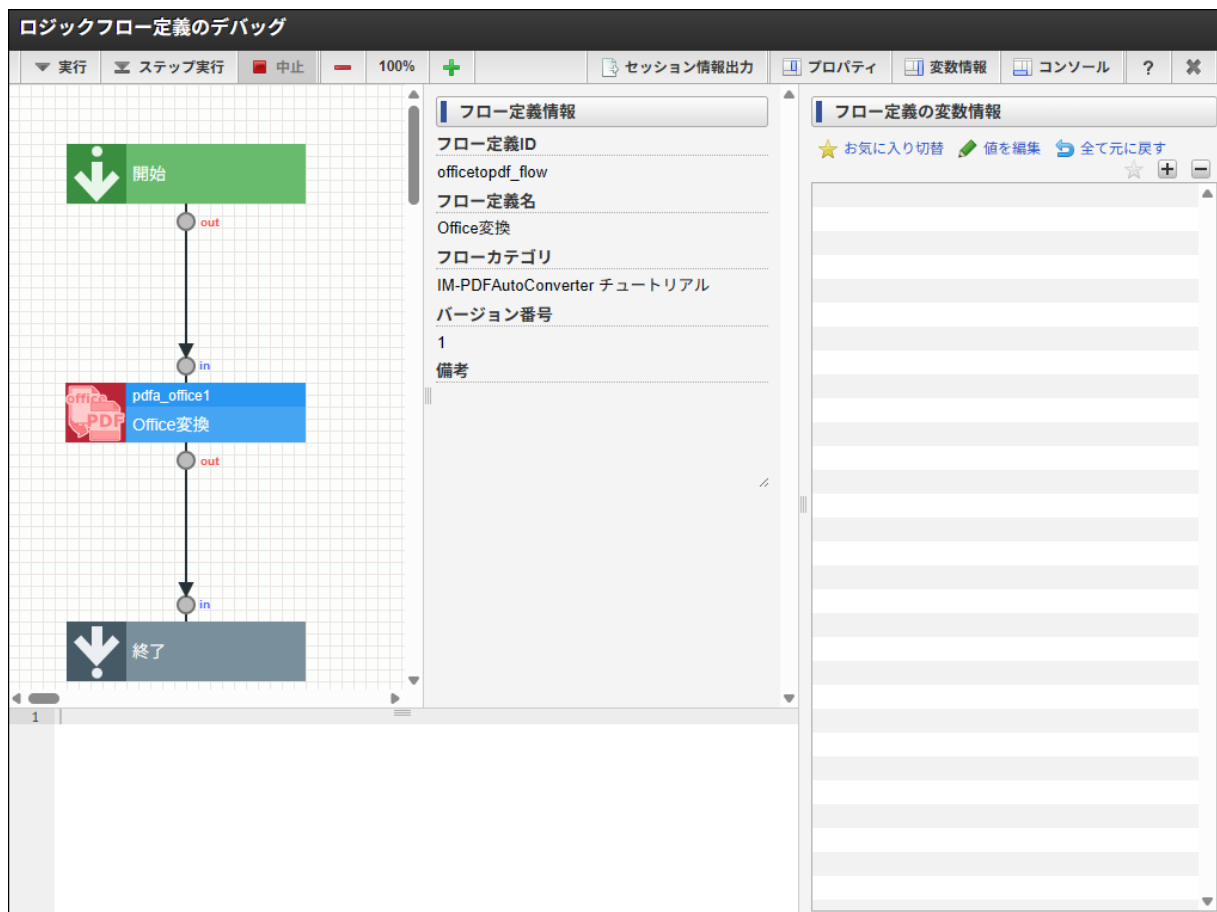
「ロジックフロー定義編集」画面が開きます。



3. 「デバッグ」をクリックします。

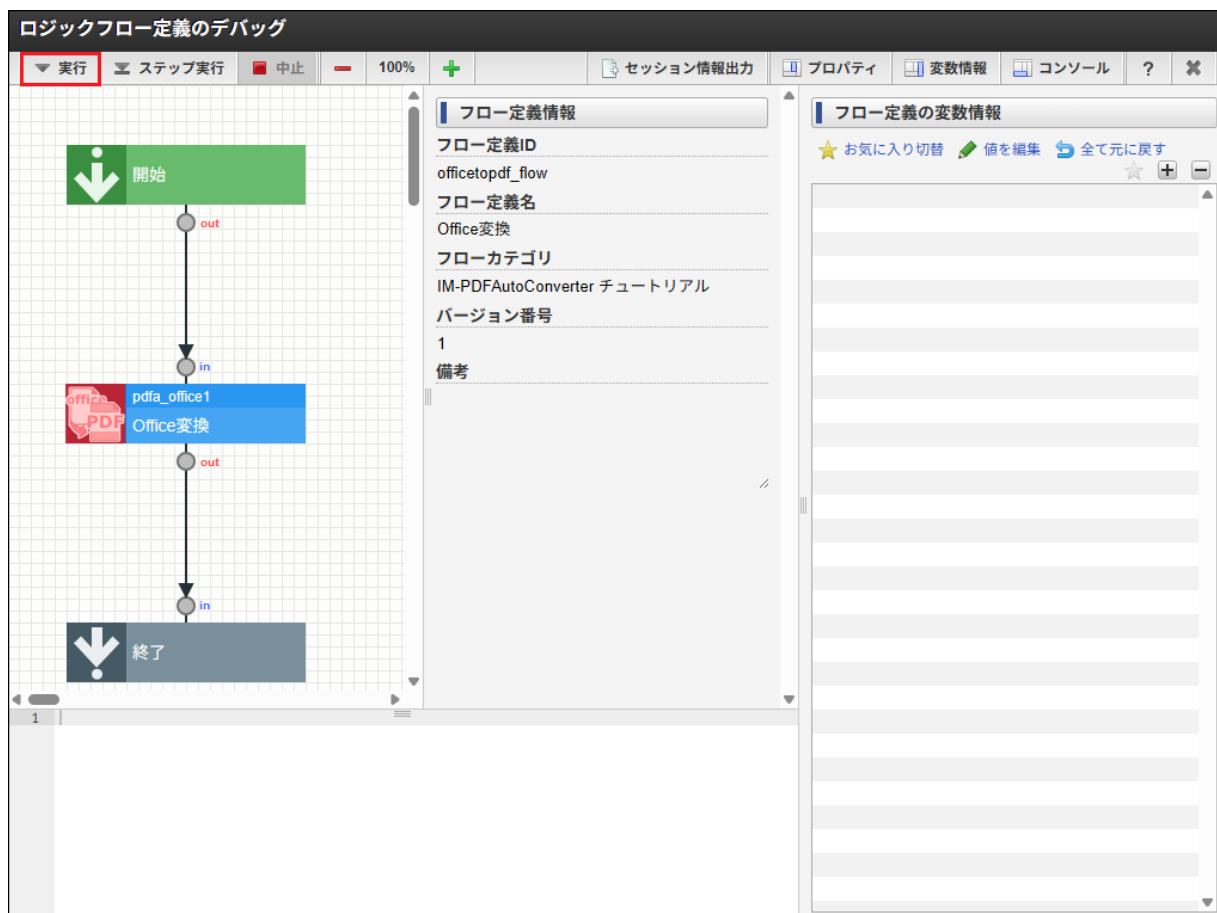


「ロジックフロー定義のデバッグ」画面が開きます。



入力値を設定し、デバッグを実行する

1. 「実行」をクリックします。



2. 各変数に次の値を設定し、「実行」をクリックします。

フロー定義の入力値の項目は次の通りです。

```
docInfo <object>
├ application <string>
├ author <string>
├ keyword <string>
├ subTitle <string>
└ title <string>
fastWebView <boolean>
inputFile <string> *
outputFile <string> *
security <object>
├ addNote <integer>
├ copy <integer>
├ edit <integer>
├ openPassword <string>
├ print <integer>
├ securityMode <integer>
└ securityPassword <string>
stampName <string>
```

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
inputFile	必須	string	なし	Office変換 の入力値 「inputFile」
outputFile	必須	string	なし	Office変換 の入力値 「outputFile」
他入力項目	—	—	—	Office変換 の各入力値

設定値は次の通りです。

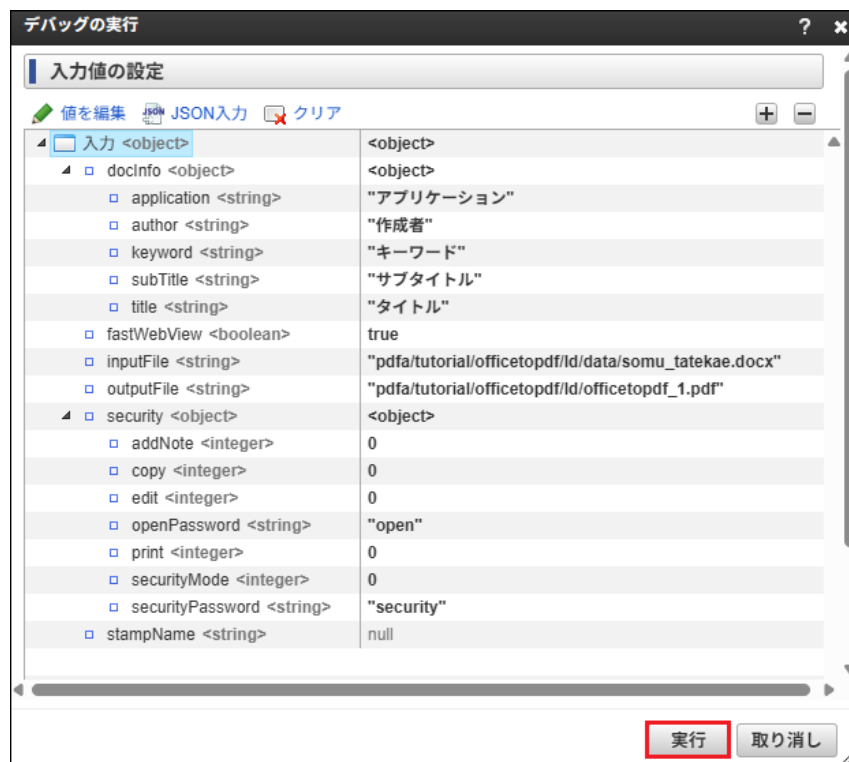
< 値を編集 >

変数	値
docInfo	
application	アプリケーション
author	作成者
keyword	キーワード
subTitle	サブタイトル
title	タイトル
fastWebView	true
inputFile	pdfa/tutorial/officetopdf/ld/data/somu_tatekae.docx
outputFile	pdfa/tutorial/officetopdf/ld/officetopdf_1.pdf
security	
addNote	0
copy	0
edit	0
openPassword	open
print	0
securityMode	0

変数	値
securityPassword	security
stampName	null

< JSON入力 >

```
{
  "docInfo": {
    "application": "アプリケーション",
    "author": "作成者",
    "keyword": "キーワード",
    "subTitle": "サブタイトル",
    "title": "タイトル"
  },
  "fastWebView": true,
  "inputFile": "pdfa/tutorial/officetopdf/ld/data/somu_tatekae.docx",
  "outputFile": "pdfa/tutorial/officetopdf/ld/officetopdf_1.pdf",
  "security": {
    "addNote": 0,
    "copy": 0,
    "edit": 0,
    "openPassword": "open",
    "print": 0,
    "securityMode": 0,
    "securityPassword": "security"
  },
  "stampName": null
}
```



コラム

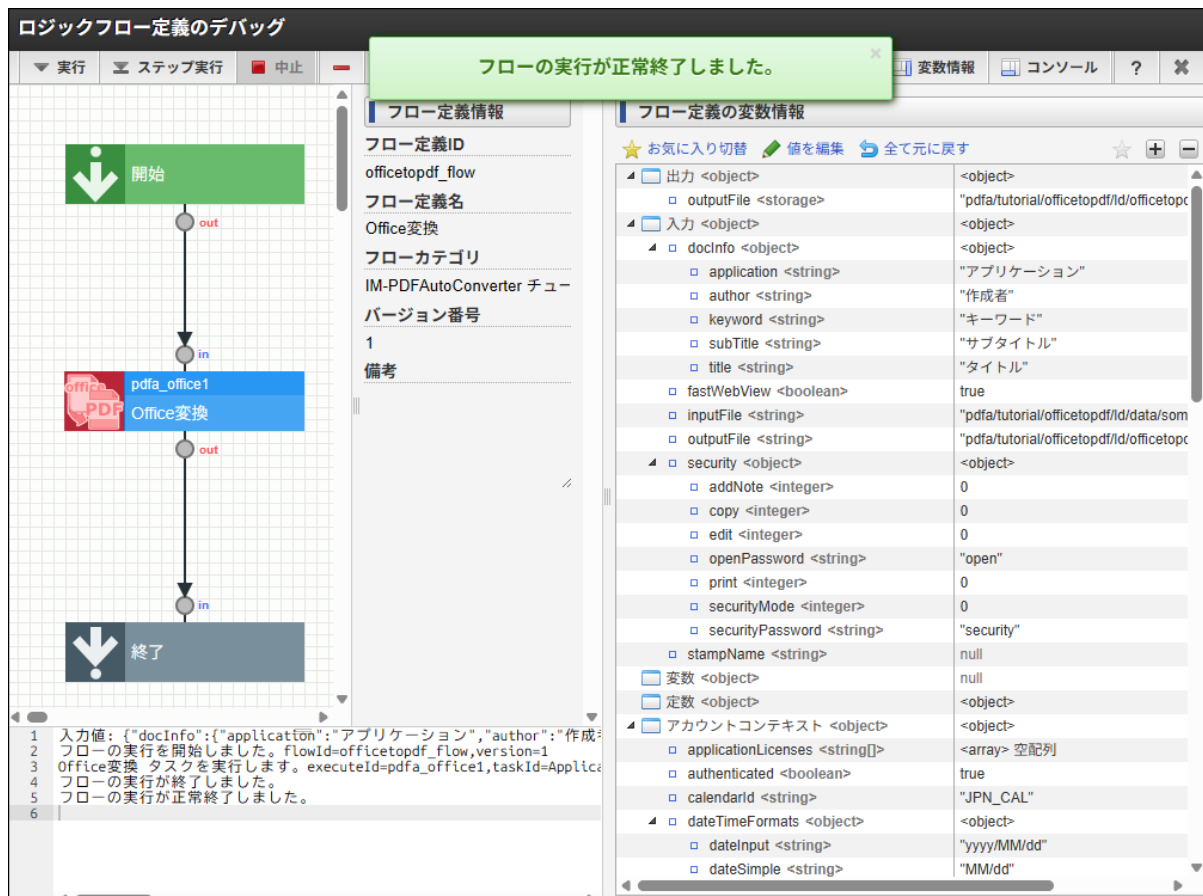
Office変換 の入出力値については「[Office変換](#)」を参照してください。

3. 「決定」をクリックします。

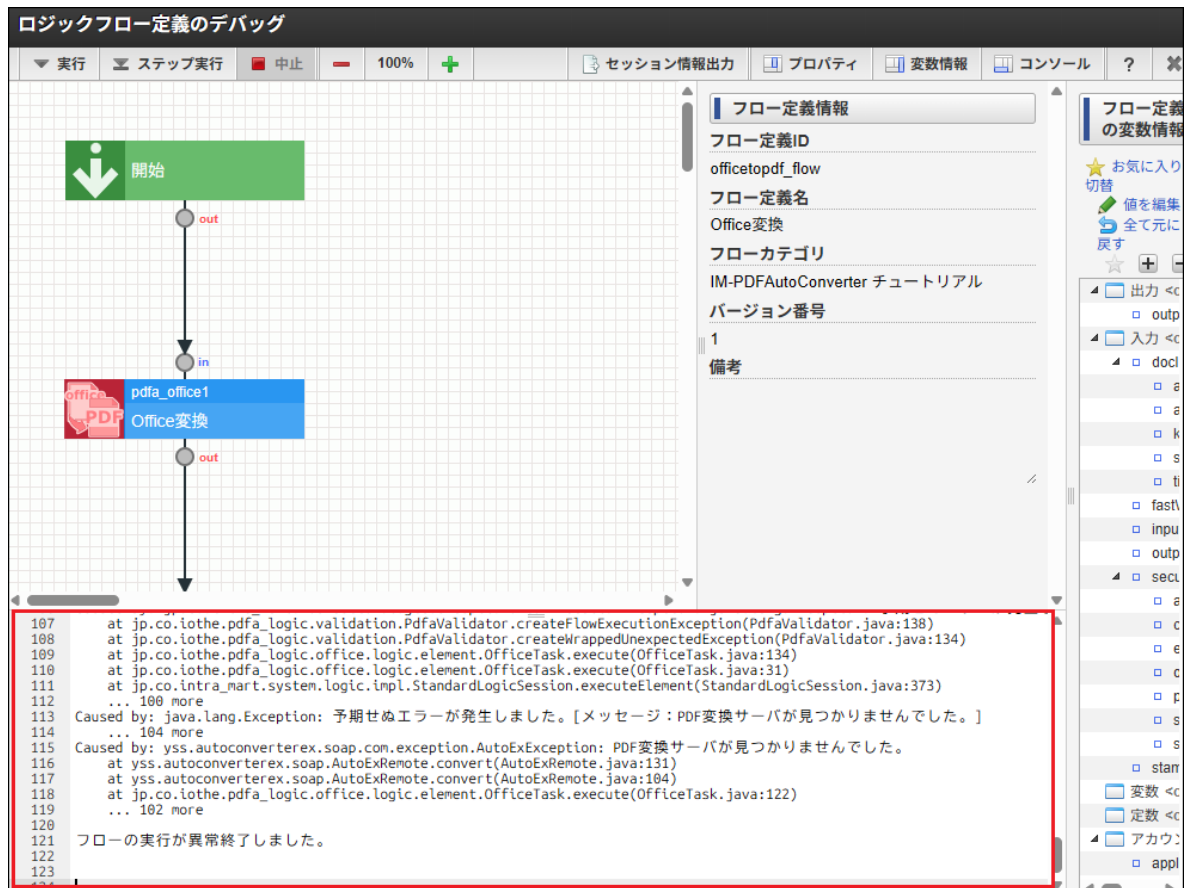


4. デバッグが開始されます。

正常にデバッグが終了した場合、その旨のメッセージが表示され、変数情報ペイン、および、コンソールペインが更新されます。

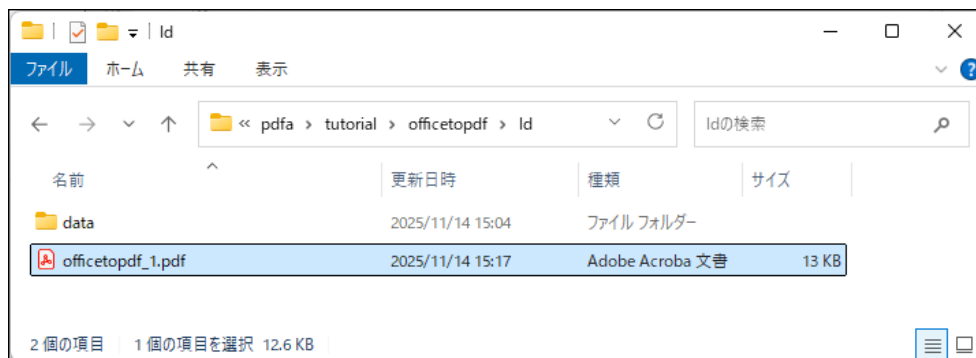


PDFファイル変換処理に失敗した場合は、デバッグ実行時のコンソールを確認してください。



実行結果を確認する

1. 「outputFile」に指定した出力先に、PDFファイルが出力されていることを確認します。



2. 出力されたPDFファイルをPDFビューア（Adobe Acrobat Reader など）で開き、正しく表示されることを確認します。

記入日	2026/04/01	所属	開発部
ユーザーID	dev12345	氏名	川崎太郎

申請情報	
支払金額	¥12,345
支払先	XXXX 文房具店
支払目的	XXXXXXXXX のため
	XXXXX (2 個) : ¥5,000



コラム

PDFファイルのパスワードは、次の通りです。

- オープンパスワード：「open」
- セキュリティパスワード：「security」

HTML変換(ワークフロー画面)

概要

本チュートリアルでは、「HTML変換(ワークフロー画面)」タスクを使用した IM-LogicDesigner のロジックフローを作成後、IM-Workflow のユーザプログラムと連携し、そのプログラムを実行することで、IM-Workflow の画面（HTMLファイル）をPDFファイルに変換します。

変換処理のタイミングは、IM-Workflow のアクション処理となります。

処理の全体の流れは、次の通りです。

- 承認ノードのアクション処理
「HTML変換(ワークフロー画面)」タスクを使用した IM-LogicDesigner のロジックフローを実行します。
- ロジックフロー
「HTML変換(ワークフロー画面)」タスクの内部で、IM-LogicDesigner連携用のジョブを実行します。
- ジョブ
HTML→PDF変換のジョブを実行し、変換処理を実行します。

前提条件

本チュートリアルを進めるにあたり、次の事前準備が行われていることが前提となります。

- 2026 Spring 以降のバージョンの IM-PDFAutoConverter for Accel Platform（HTML→PDF変換、ジョブ、IM-LogicDesigner連携）のセットアップが完了していること。
- ジョブスケジューラのセットアップが完了していること。

- IM-LogicDesigner のセットアップが完了していること。
- IM-Workflow のセットアップが完了していること。
- IM-FormaDesigner for Accel Platform のセットアップが完了していること。
- intra-mart Accel Platform のテナント環境セットアップが完了していること。
- 次のzipファイルをダウンロードし、解凍してください。

< [htmltopdf_wf_ld_tutorial.zip](#) >

解凍したファイルの構成は、次の通りです。

フォルダ名／ファイル名	説明
import/	HTML変換(ワークフロー画面) インポート関連フォルダ
htmltopdf_wf_ld_flow.zip	チュートリアル用フロー定義の定義情報ファイル
htmltopdf_wf_ld_forma.zip	IM-FormaDesigner for Accel Platform で作成したアプリケーションのアプリケーション情報ファイル
htmltopdf_wf_ld_workflow.xml	IM-Workflow のコンテンツ定義、ルート定義、および、フロー定義の定義情報ファイル

< import/htmltopdf_wf_ld_flow.zip >を、 IM-LogicDesigner のインポート画面からインポートしてください。

< import/htmltopdf_wf_ld_forma.zip >を、 IM-FormaDesigner for Accel Platform のアプリケーション情報インポート画面からインポートしてください。

< import/htmltopdf_wf_ld_workflow.xml >を、 IM-Workflow のインポート画面からインポートしてください。

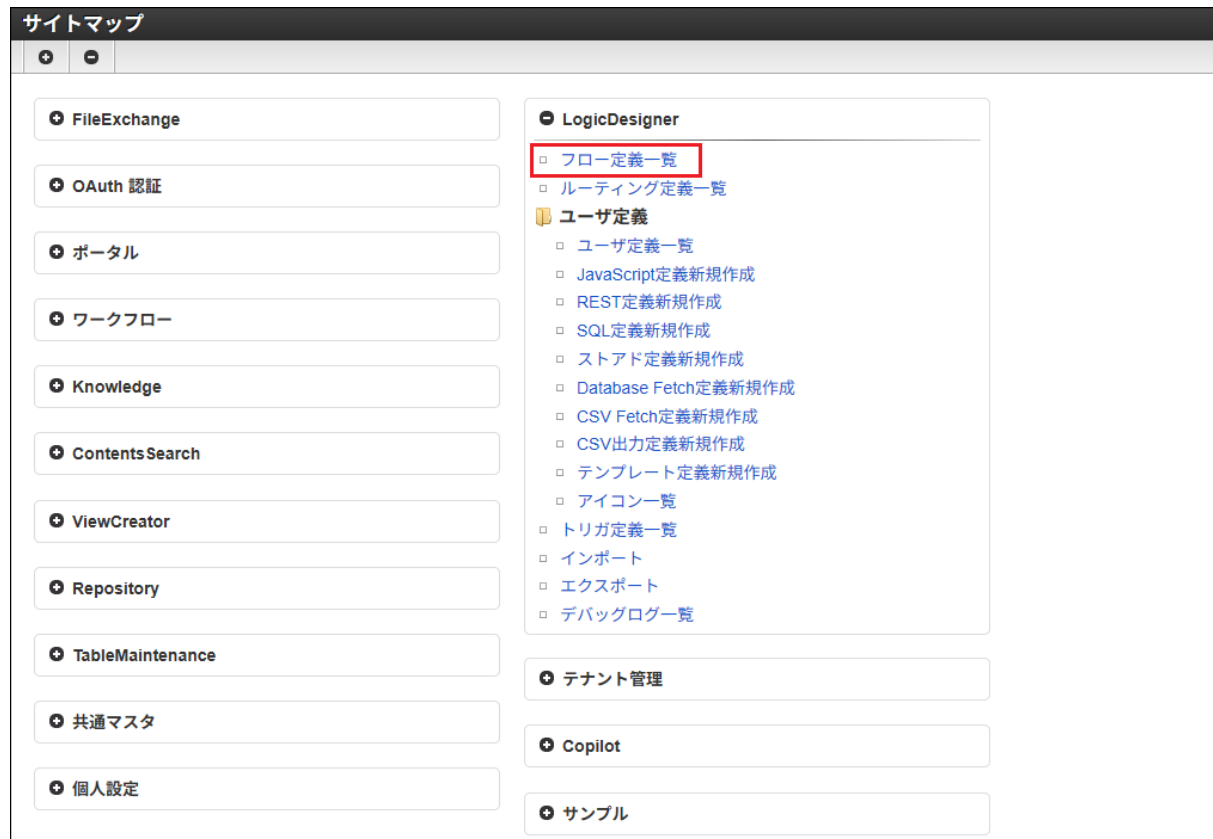
実践

次の手順に沿って、チュートリアルを進めます。

ロジックフロー定義の作成

ロジックフローの入出力設定を行う

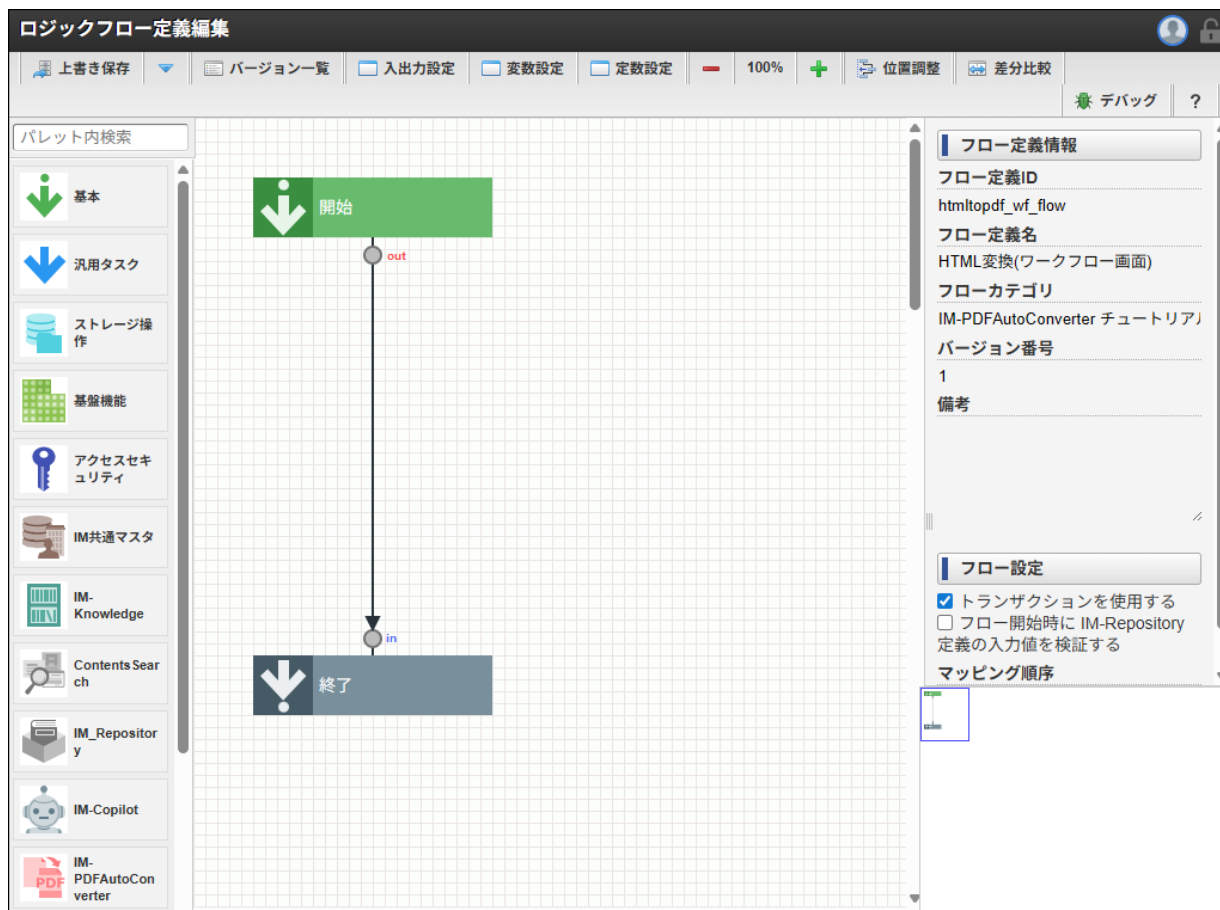
1. 「サイトマップ」 - 「LogicDesigner」 - 「フロー定義一覧」をクリックします。



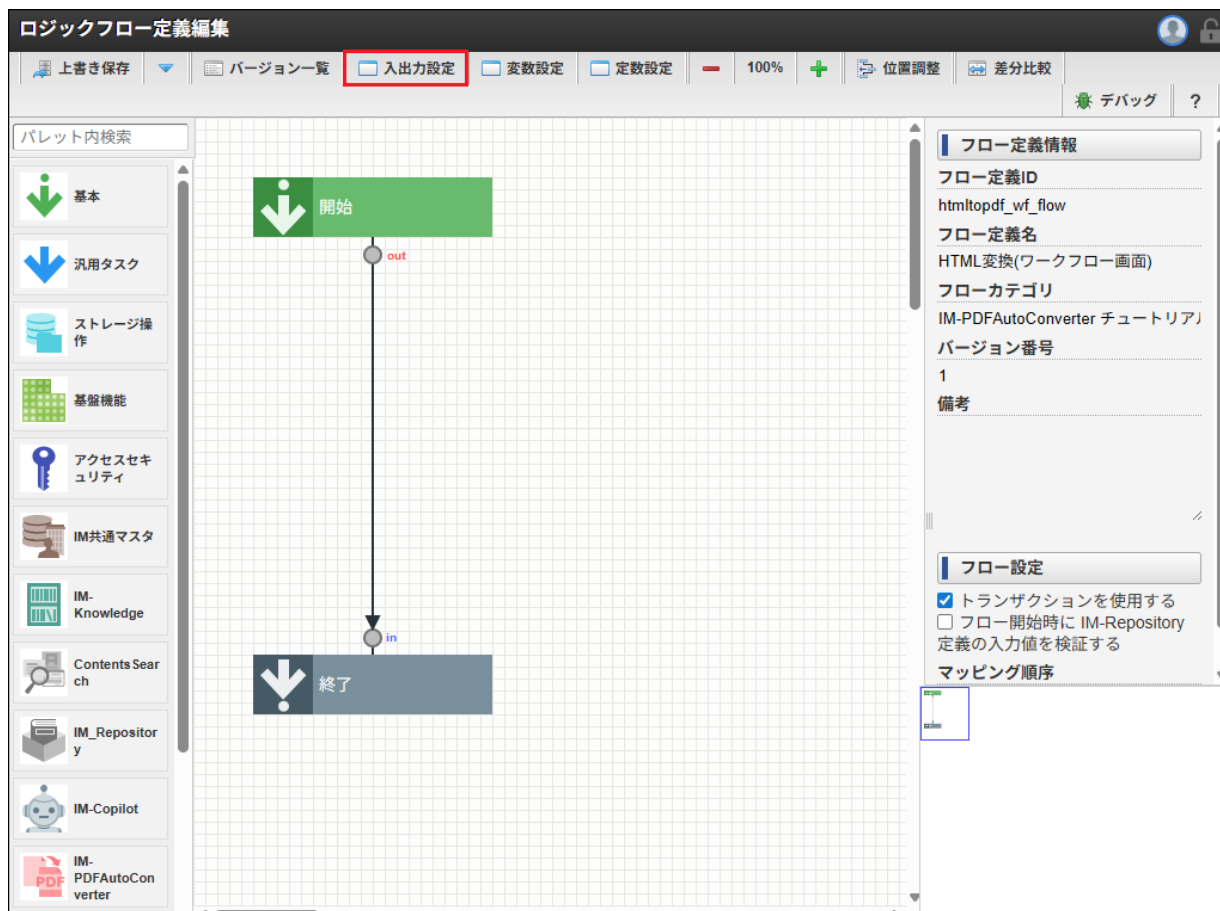
2. 「IM-PDFAutoConverter チュートリアル」から「HTML変換(ワークフロー画面)」を選択し、「フロー定義編集」をクリックします。



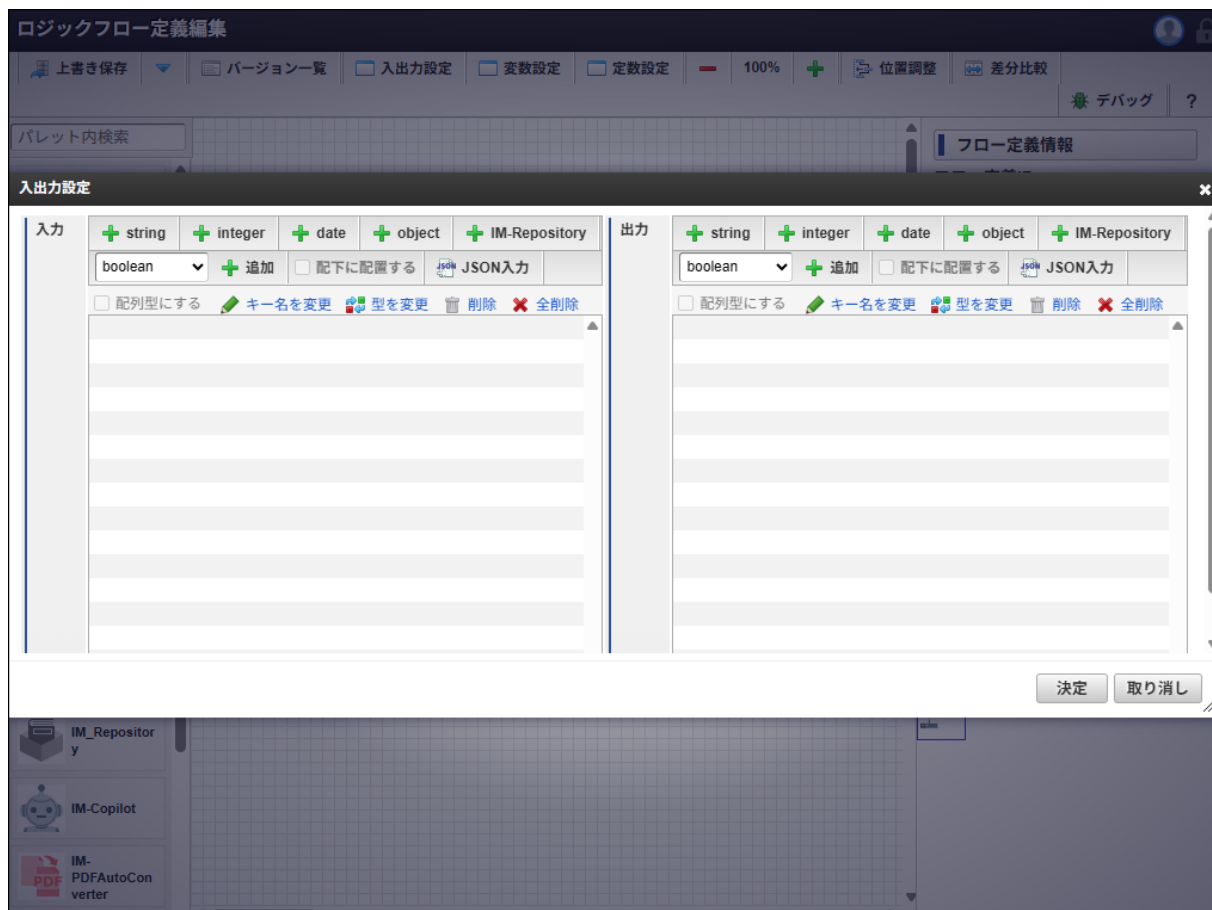
「ロジックフロー定義編集」画面が開きます。



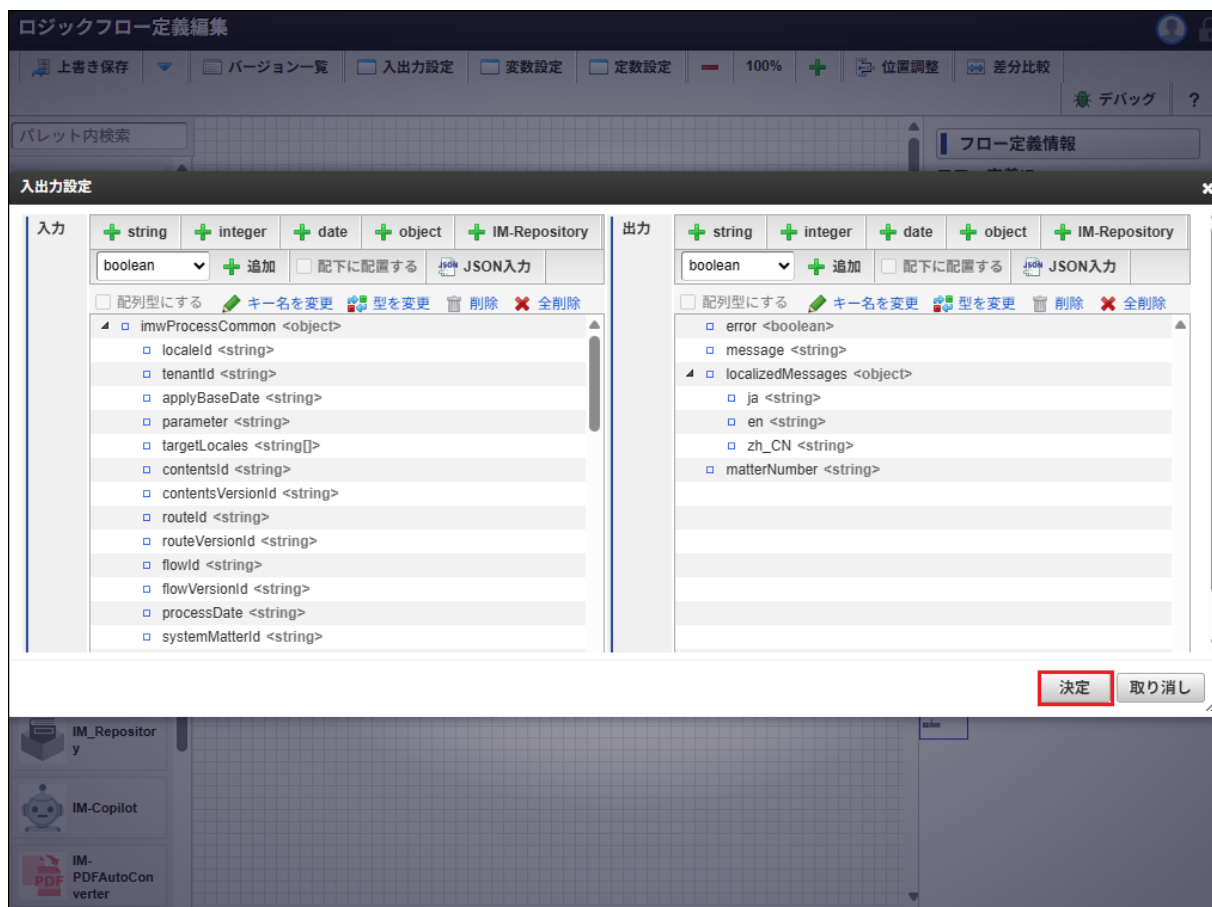
3. 「入出力設定」をクリックします。



「入出力設定」画面が開きます。



4. 「IM-Workflow 管理者操作ガイド」- 「ロジックフローの入出力設定 - アクション処理」を参照し、IM-Workflow のアクション処理に対応した入出力設定を行い、「決定」をクリックします。

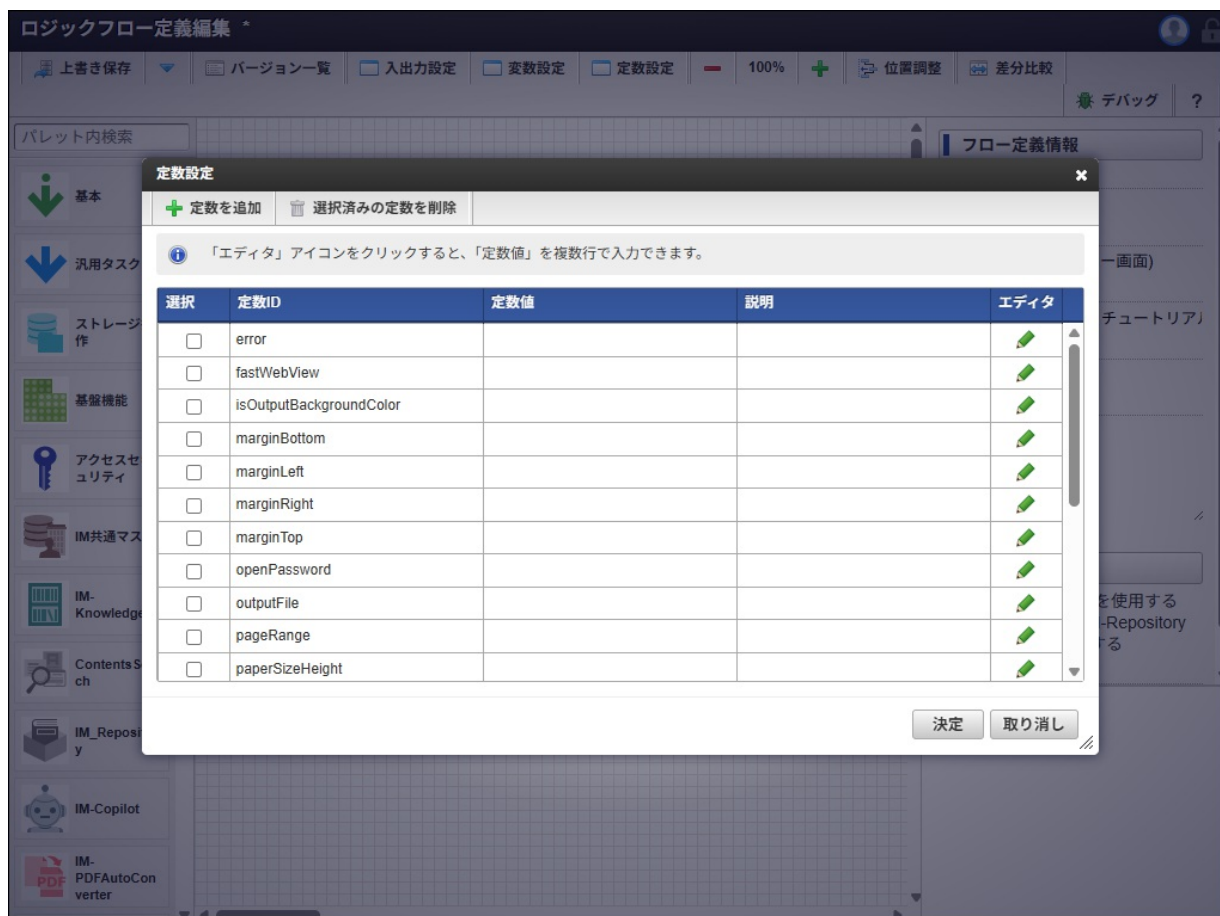


ロジックフローの定数設定を行う

1. 「定数設定」をクリックします。

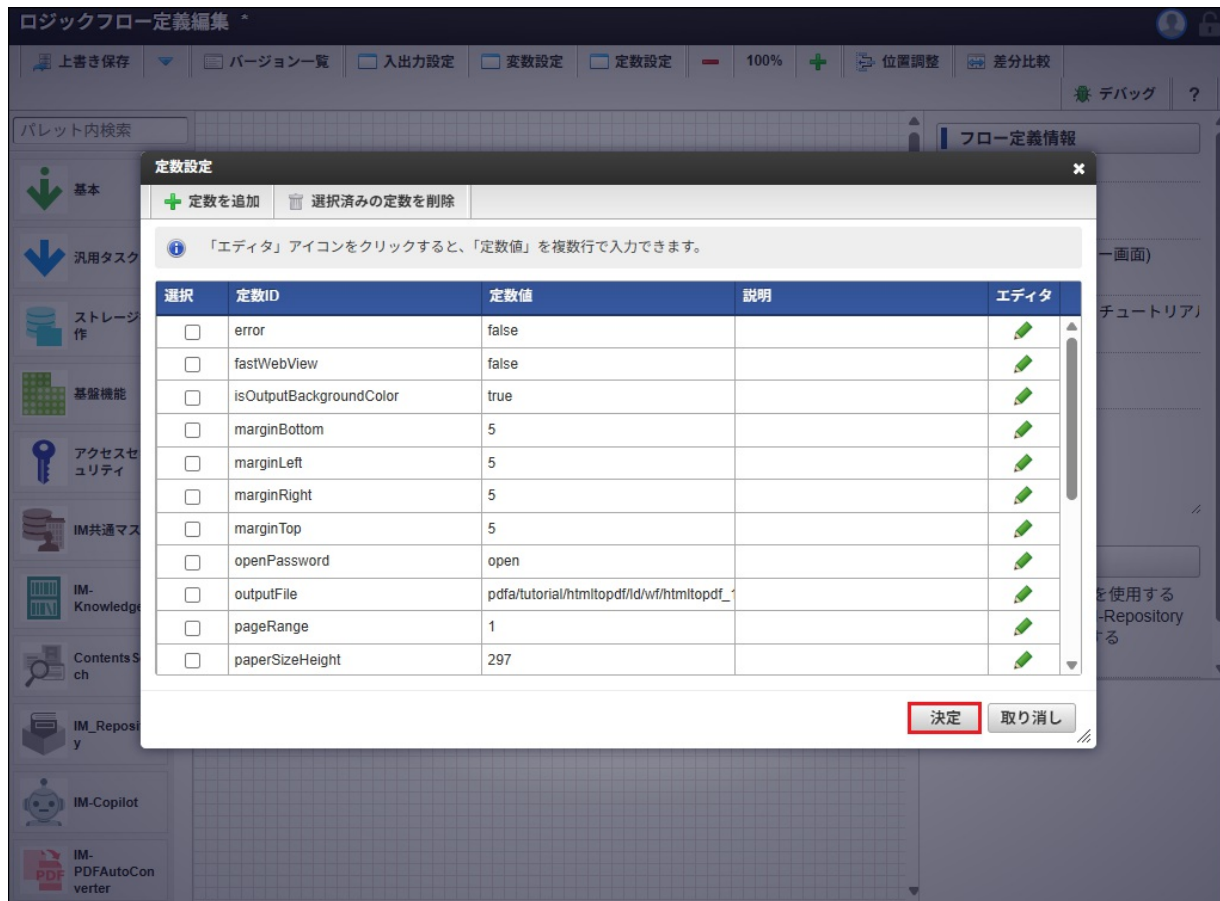


「定数設定」画面が開きます。



2. 次の通りに定数値を設定し、「決定」をクリックします。

定数ID	定数値
error	false
fastWebView	false
isOutputBackgroundColor	true
marginBottom	5
marginLeft	5
marginRight	5
marginTop	5
openPassword	open
outputFile	pdfa/tutorial/htmltopdf/ld/wf/htmltopdf_1.pdf
pageRange	1
paperSizeHeight	297
paperSizeWidth	210
scale	1.0
securityAddNote	0
securityCopy	0
securityEdit	0
securityMode	0
securityPassword	security
securityPrint	0
userCd	aoyagi
waitMillisecond	5000



タスクを配置する

1. 「開始」制御要素と「終了」制御要素に引かれている線を削除します。



2. パレット内から「IM-PDFAutoConverter」-「HTML変換(ワークフロー画面)」をクリックします。



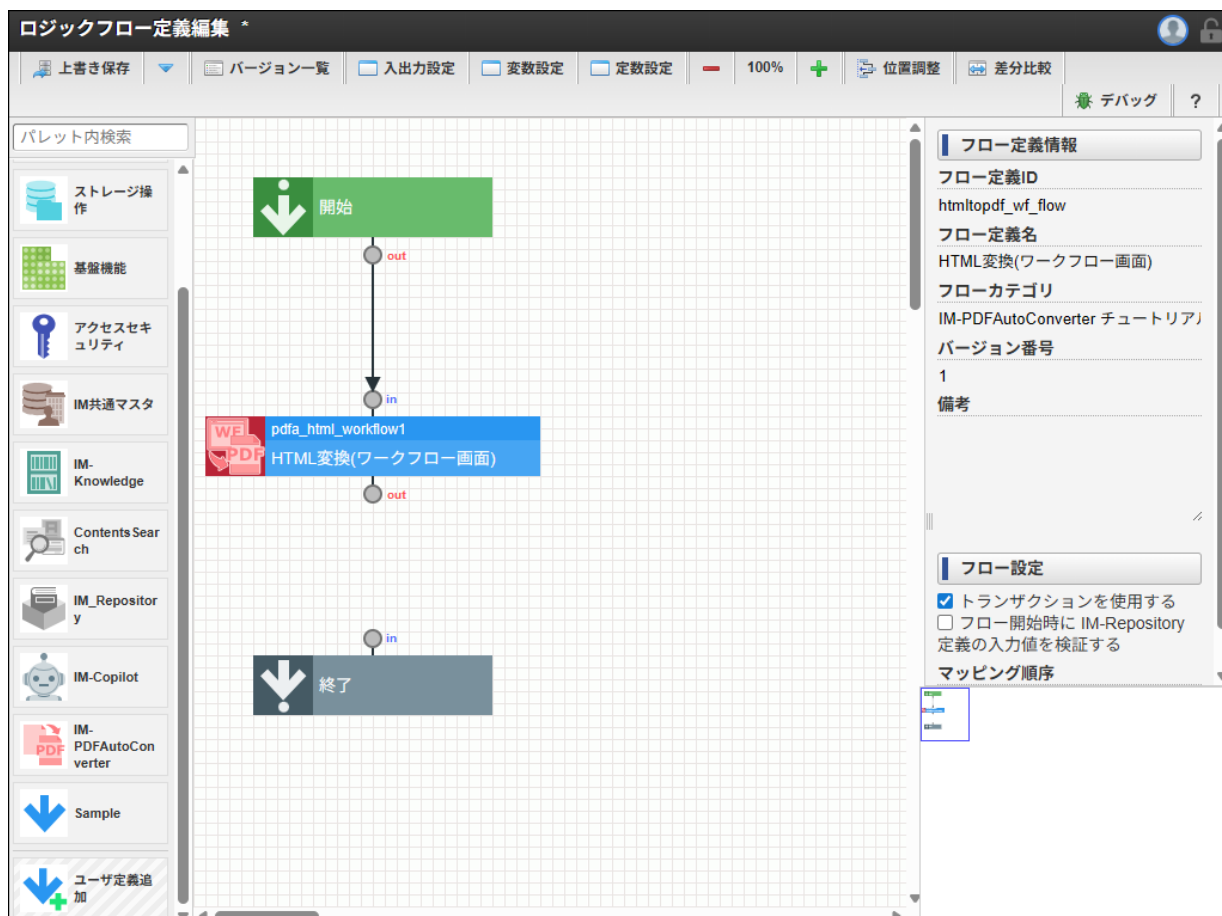
タスクがフロー編集画面上に追加されます。



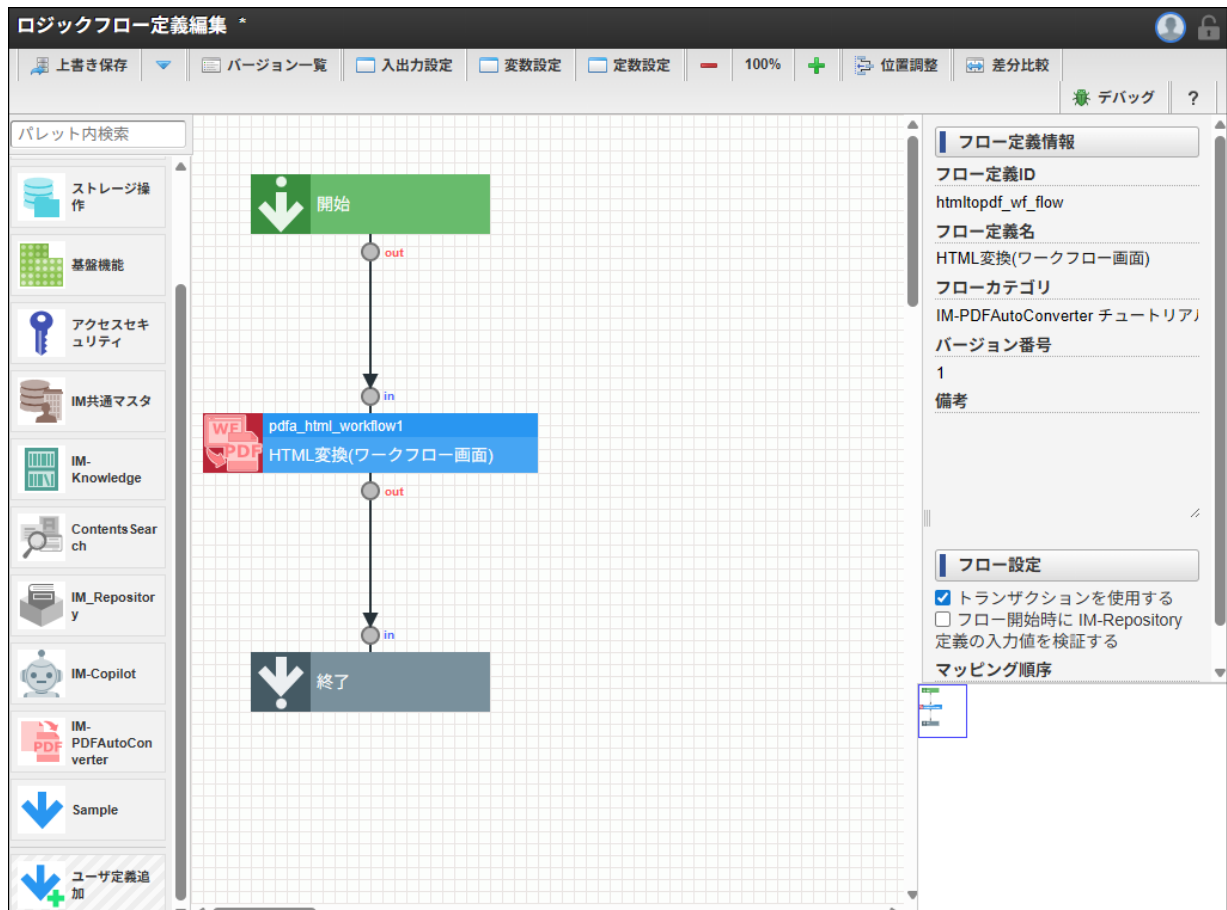
- 「HTML変換(ワークフロー画面)」タスクを、「開始」制御要素と「終了」制御要素の間に移動します。



4. 「開始」制御要素から「HTML変換(ワークフロー画面)」タスクに線を引きます。

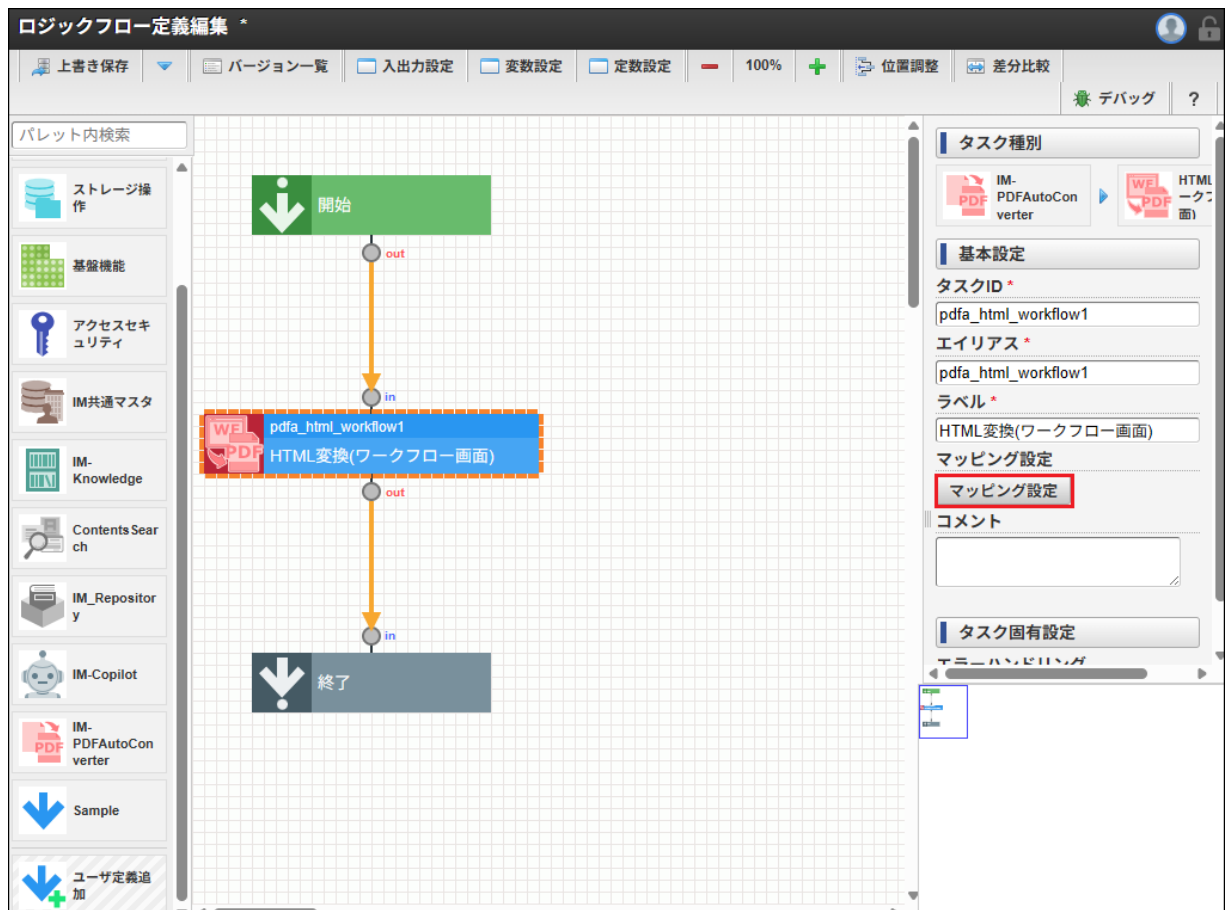


5. 「HTML変換(ワークフロー画面)」タスクから「終了」制御要素に線を引きます。

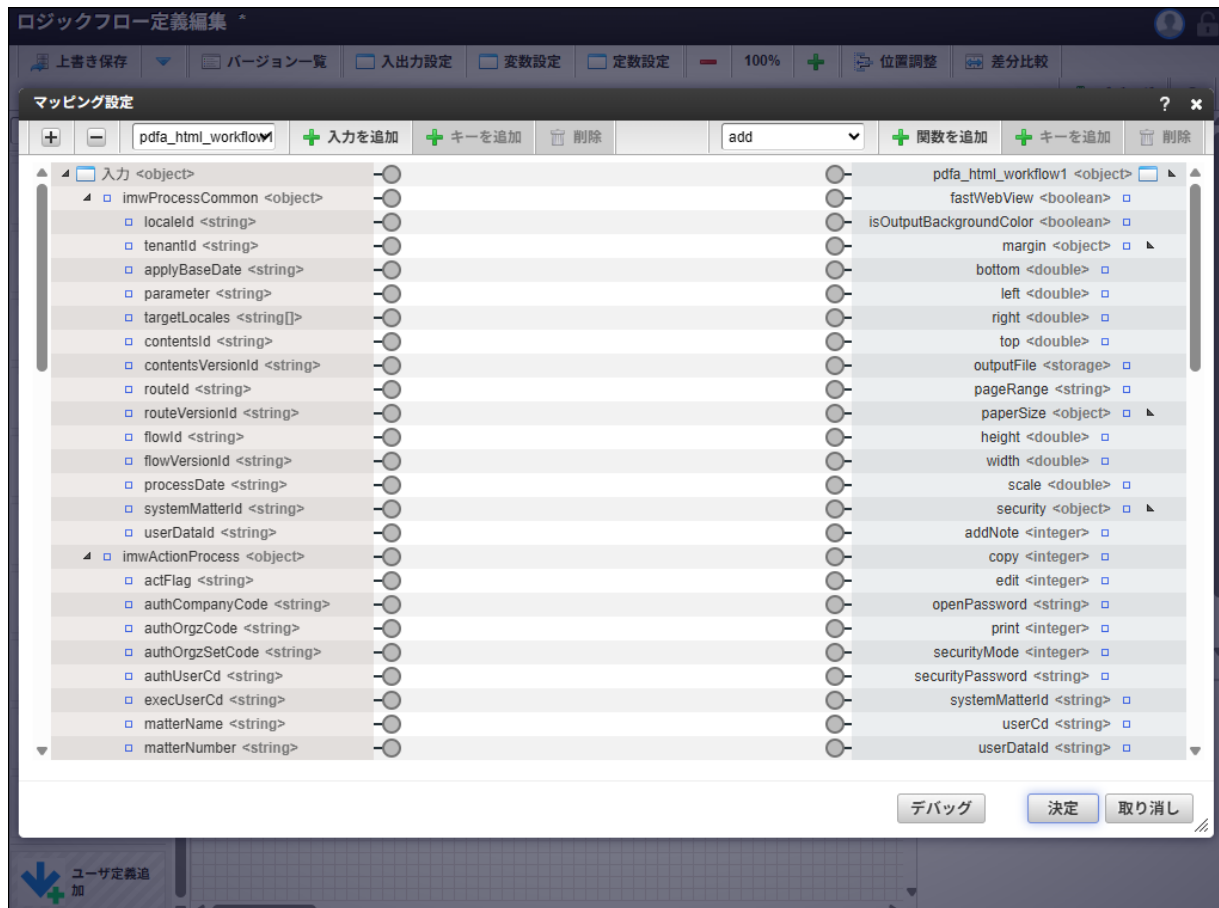


マッピングの設定を行う

1. 「HTML変換(ワークフロー画面)」タスクをクリックし、プロパティ画面から「マッピング設定」をクリックします。



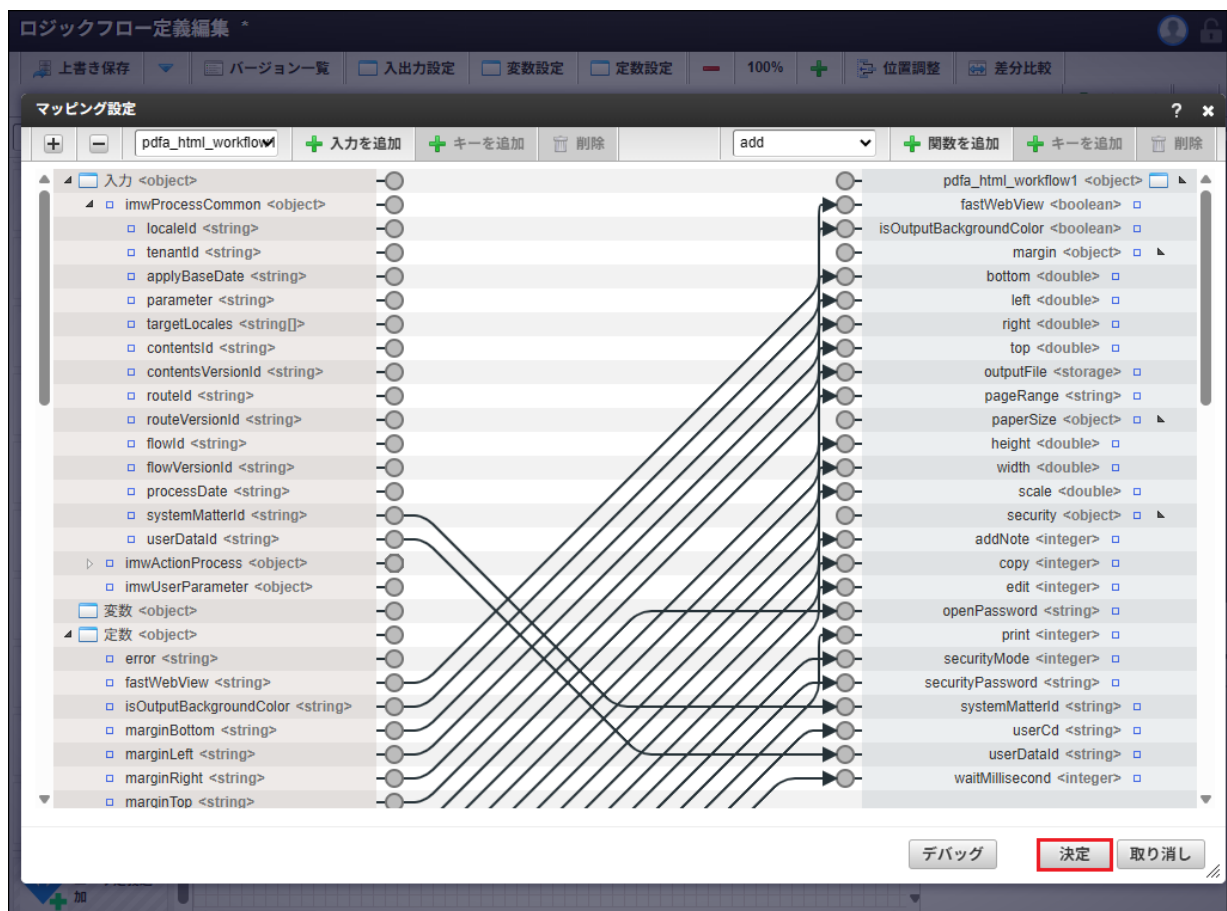
「マッピング設定」画面が開きます。



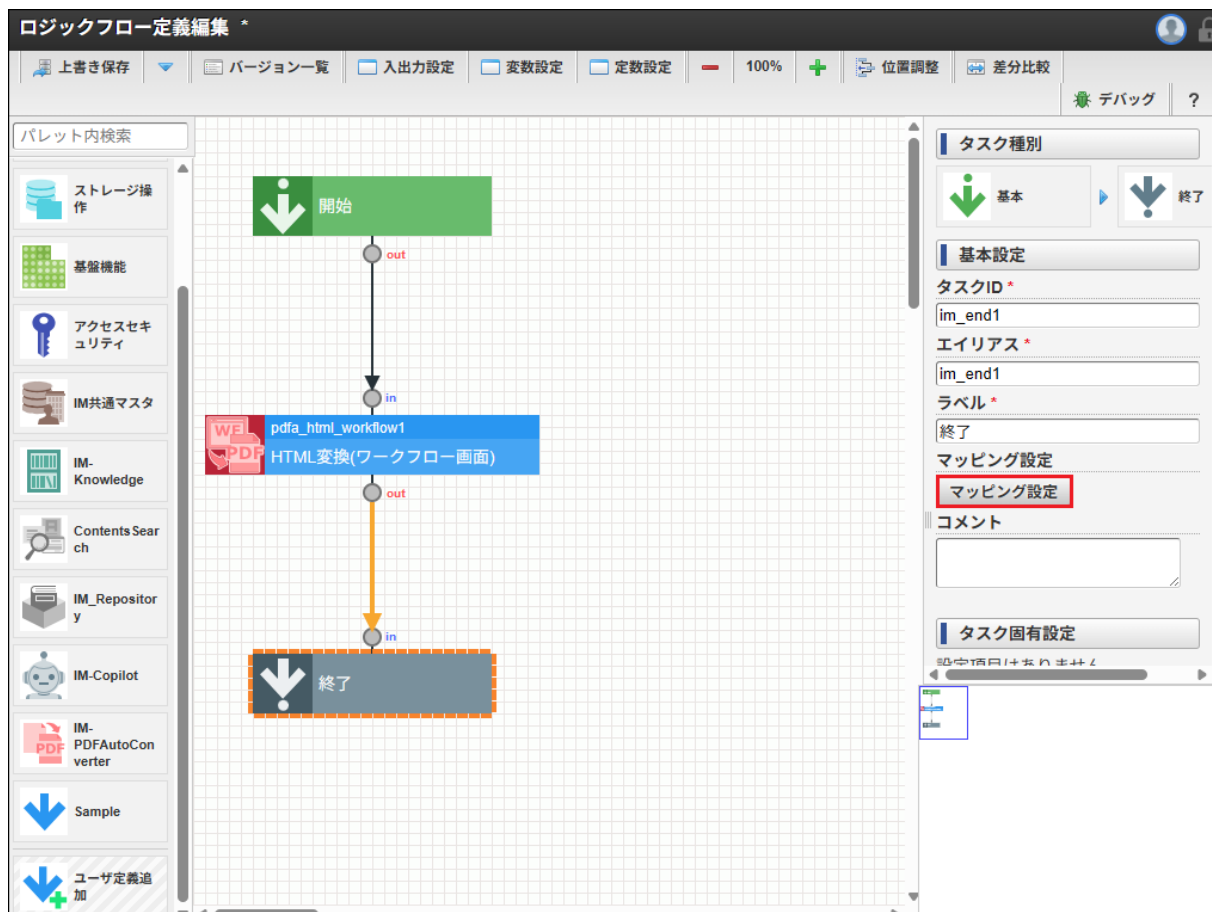
2. 次の通りにマッピングし、「決定」をクリックします。

始点 (入力 < object >)	終点 (pdfa_html_workflow1 < object >)
imwProcessCommon<object>	
- systemMatterId < string >	systemMatterId < string >
- userDataId < string >	userDataId < string >
始点 (定数 < object >)	終点 (pdfa_html_workflow1 < object >)
fastWebView < string >	fastWebView < boolean >
isOutputBackgroundColor < string >	isOutputBackgroundColor < boolean >
marginBottom < string >	margin < object > - bottom < double >
marginLeft < string >	- left < double >
marginRight < string >	- right < double >
marginTop < string >	- top < double >
outputFile < string >	outputFile < storage >
pageRange < string >	pageRange < string >
paperSizeHeight < string >	paperSize < object > - height < double >
paperSizeWidth < string >	- width < double >
scale < string >	scale < double >
securityAddNote < string >	security < object > - addNote < integer >

始点 (定数 < object >)	終点 (pdfa_html_workflow1 < object >)
securityCopy < string >	- copy < integer >
securityEdit < string >	- edit < integer >
openPassword < string >	- openPassword < string >
securityPrint < string >	- print < integer >
securityMode < string >	- securityMode < integer >
securityPassword < string >	- securityPassword < string >
userCd < string >	userCd < string >
waitMillisecond < string >	waitMillisecond < integer >



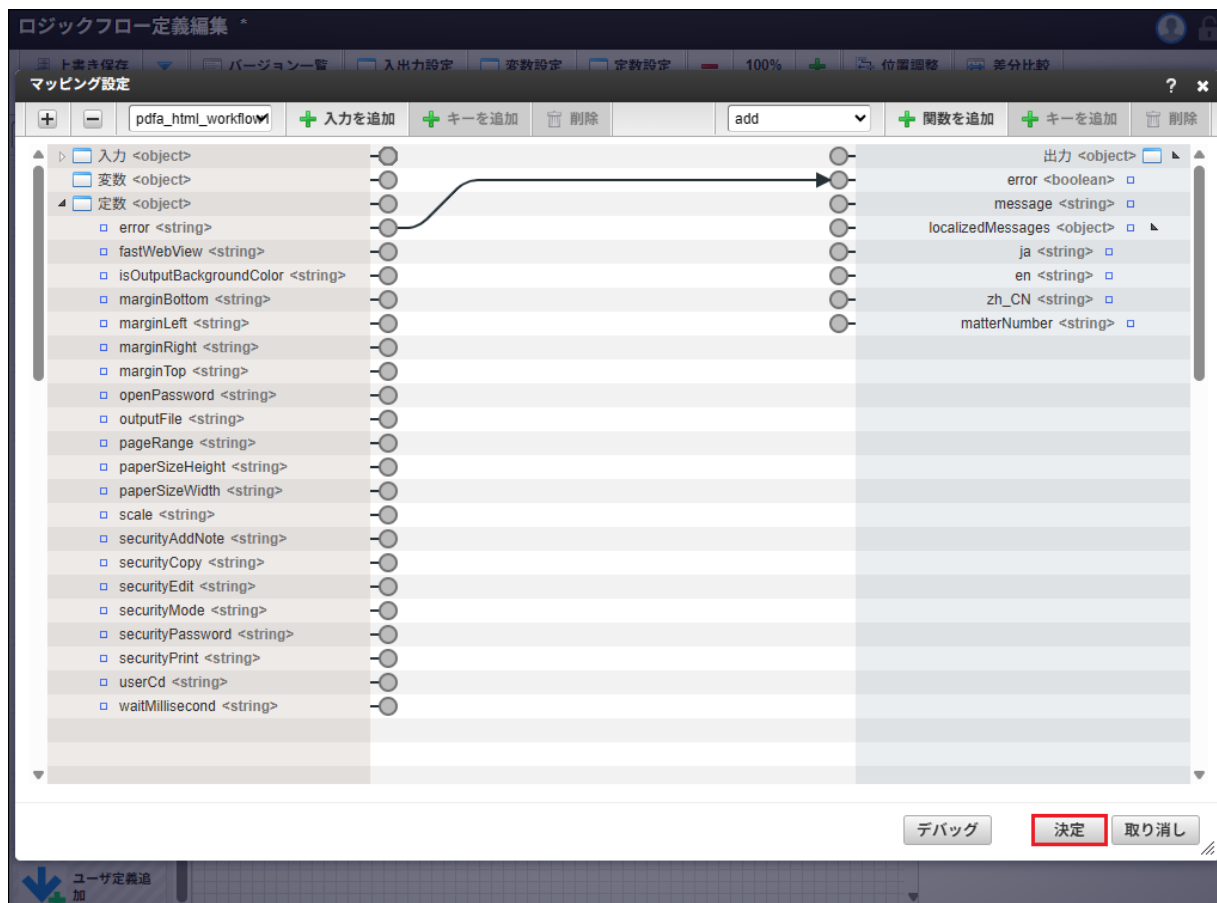
3. 「終了」制御要素をクリックし、プロパティ画面から「マッピング設定」をクリックします。



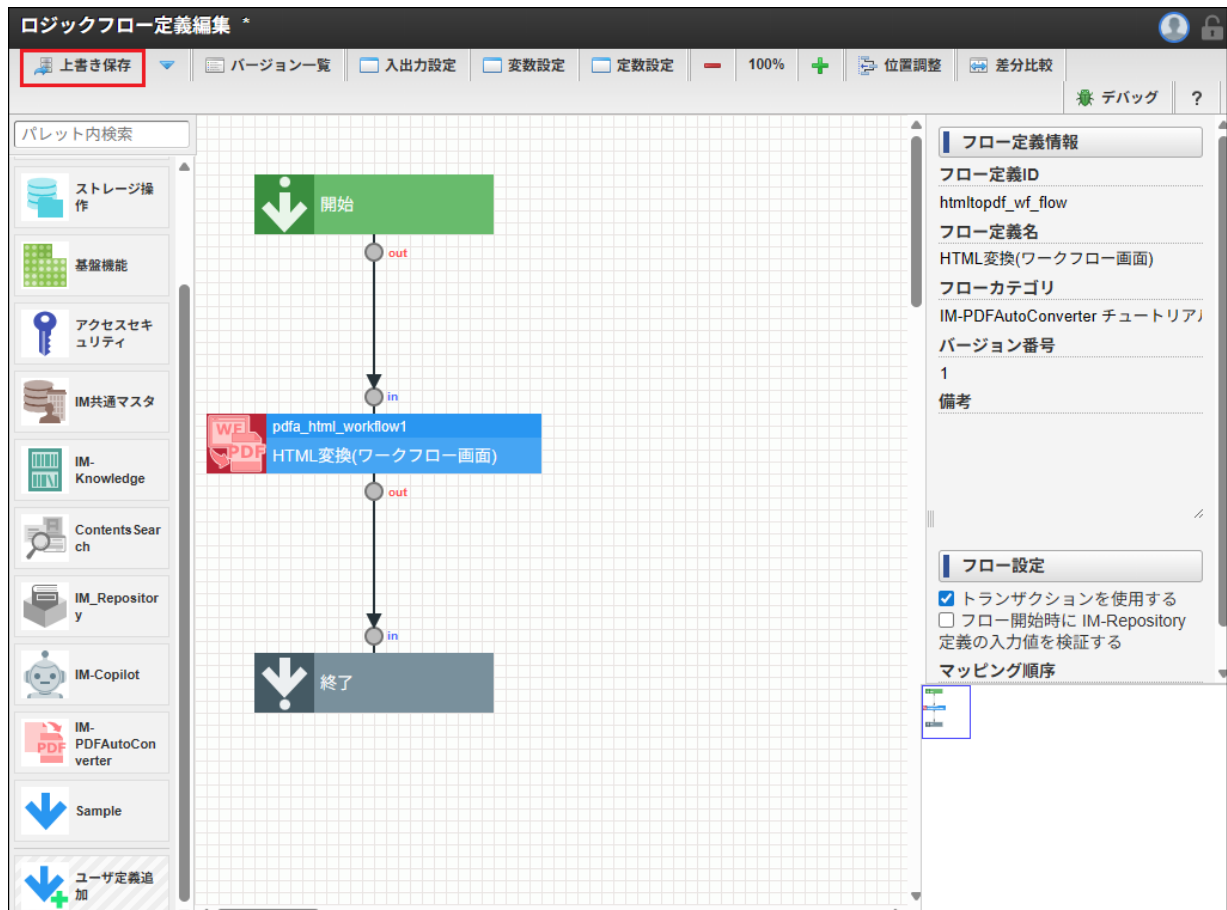
4. 次の通りにマッピングし、「決定」をクリックします。

始点 (定数 < object >) 終点 (出力 < object >)

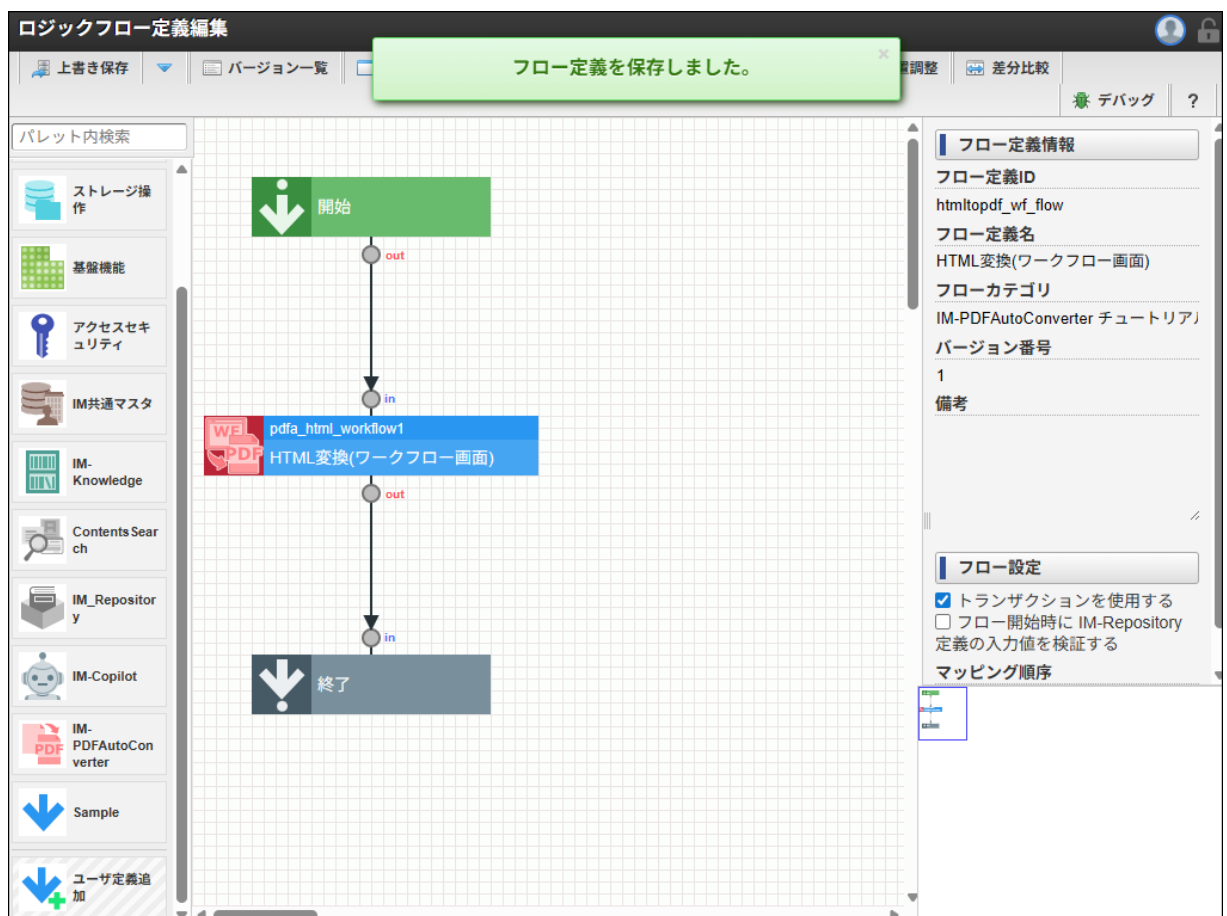
error < string > error < boolean >



5. 「上書き保存」をクリックします。



フロー定義が保存されます。



IM-Workflow とロジックフローの連携

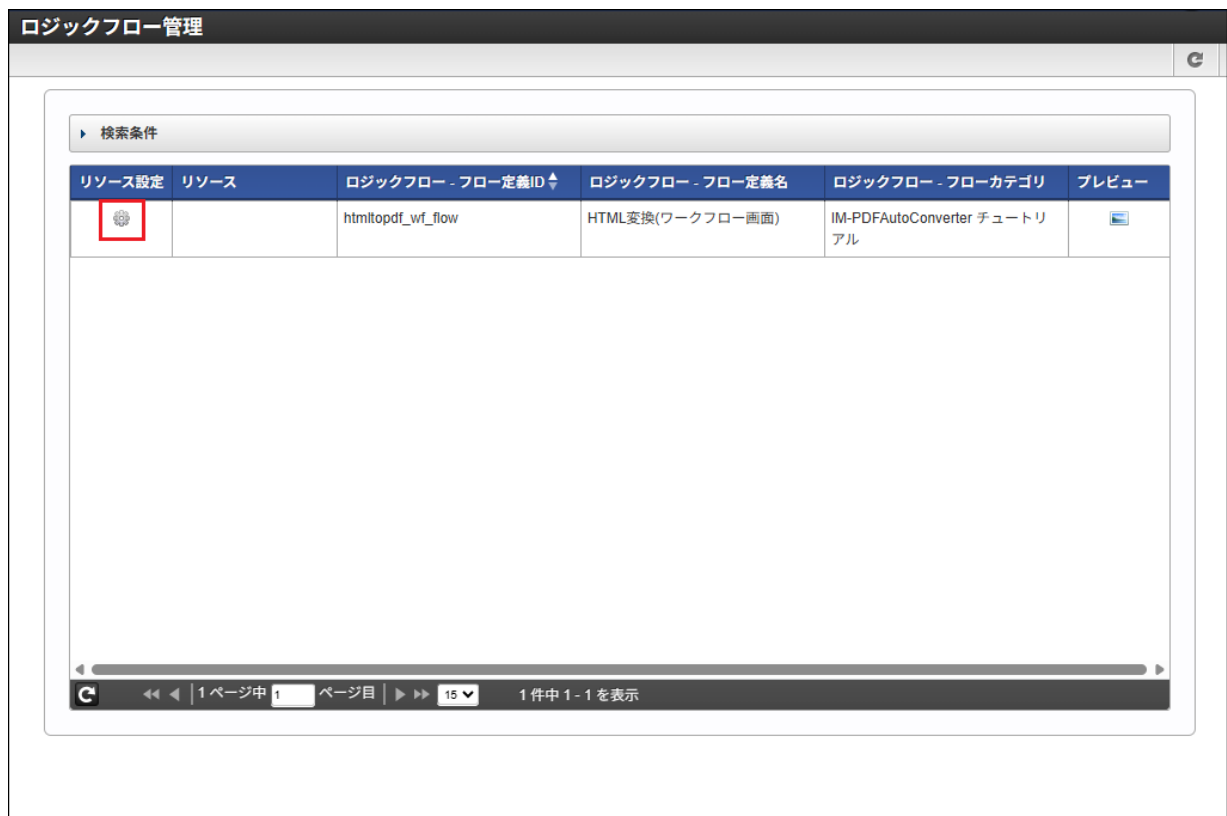
「IM-Workflow 管理者操作ガイド」-「利用するための手順」の手順1を参照し、必要に応じて認可を設定してください。

リソースを設定する

1. 「サイトマップ」-「ワークフロー」-「ワークフロー管理者」-「ロジックフロー管理」をクリックします。



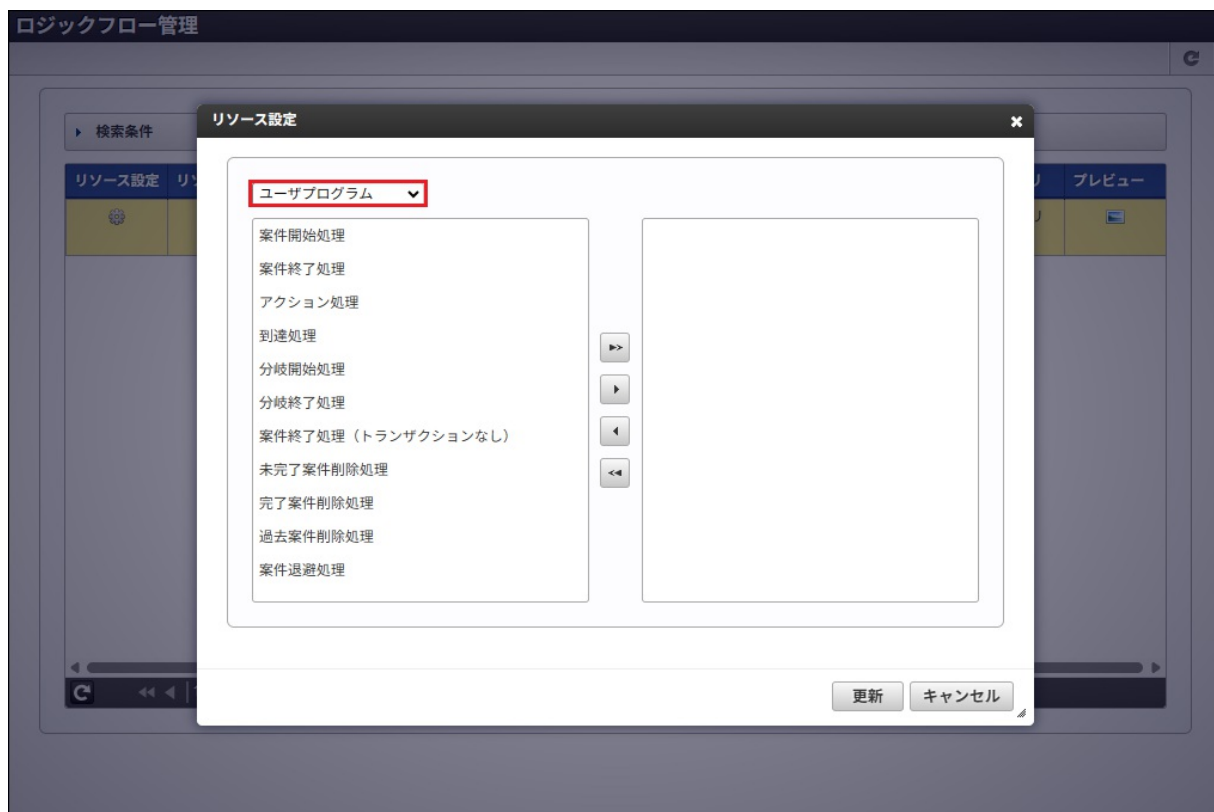
2. フロー定義ID「htmltopdf_wf_flow」の、「リソース設定」アイコンをクリックします。



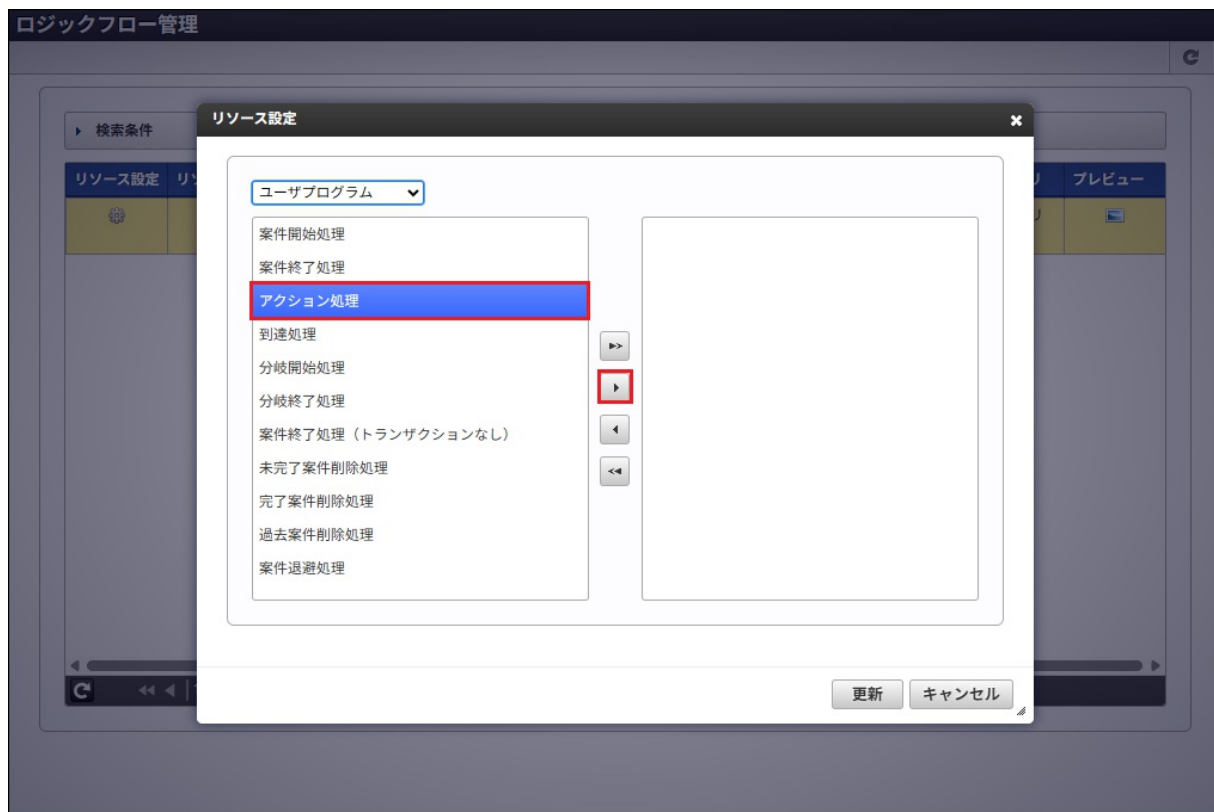
「リソース設定」画面が開きます。



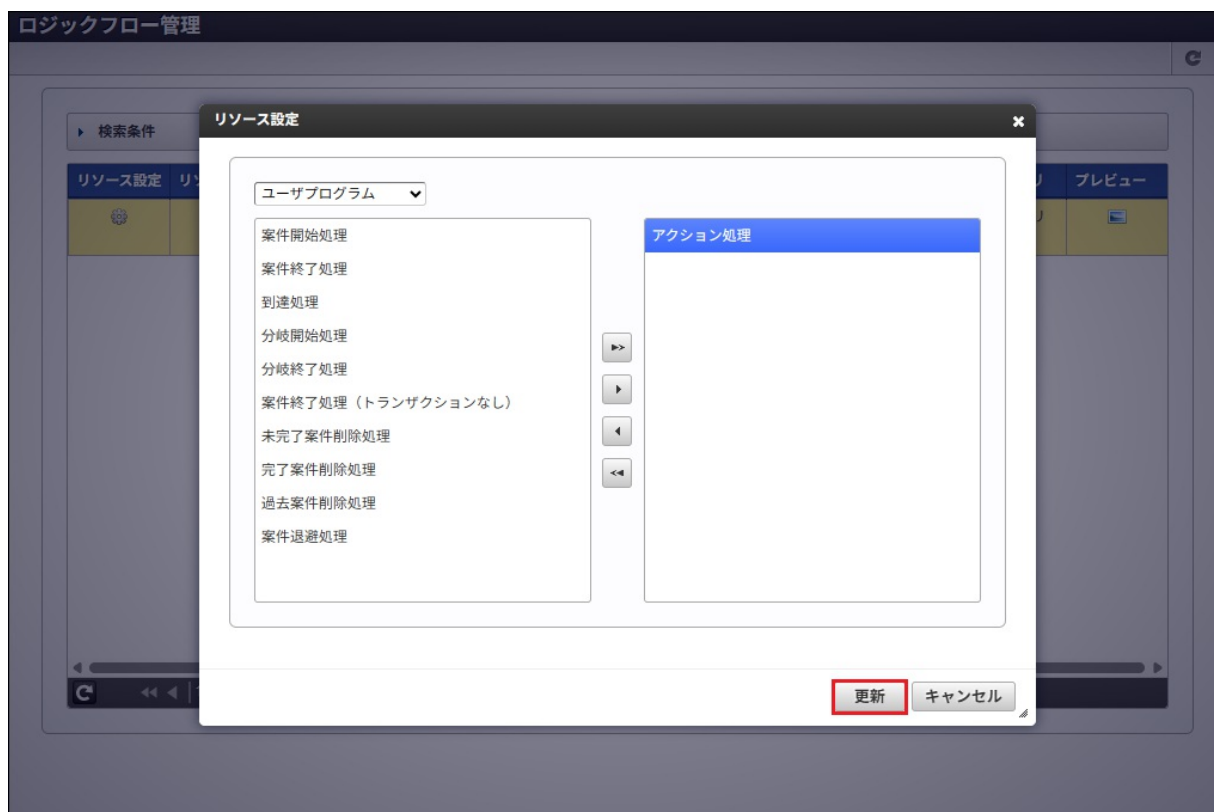
3. 画面左上のセレクトボックスから「ユーザプログラム」を選択します。



4. 「アクション処理」を選択し、「右向きの矢印」アイコンをクリックします。



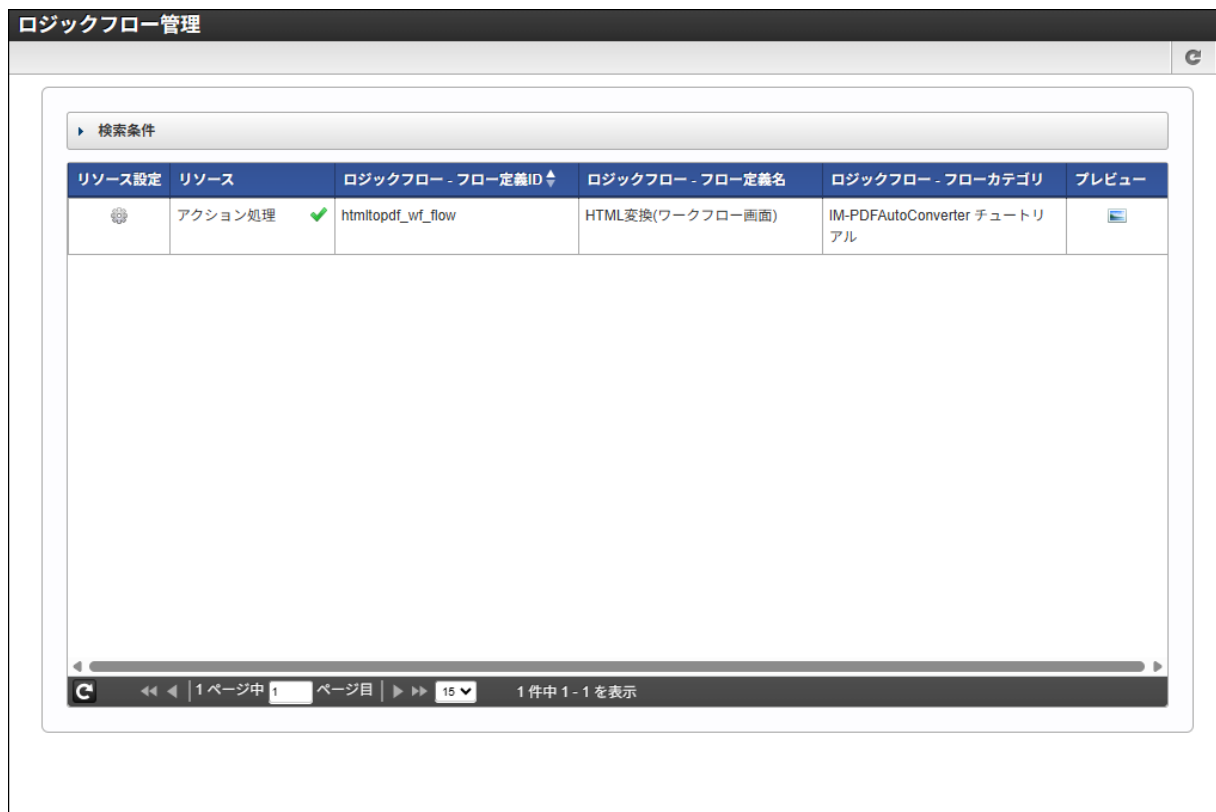
5. 「更新」をクリックします。



6. 「決定」をクリックします。

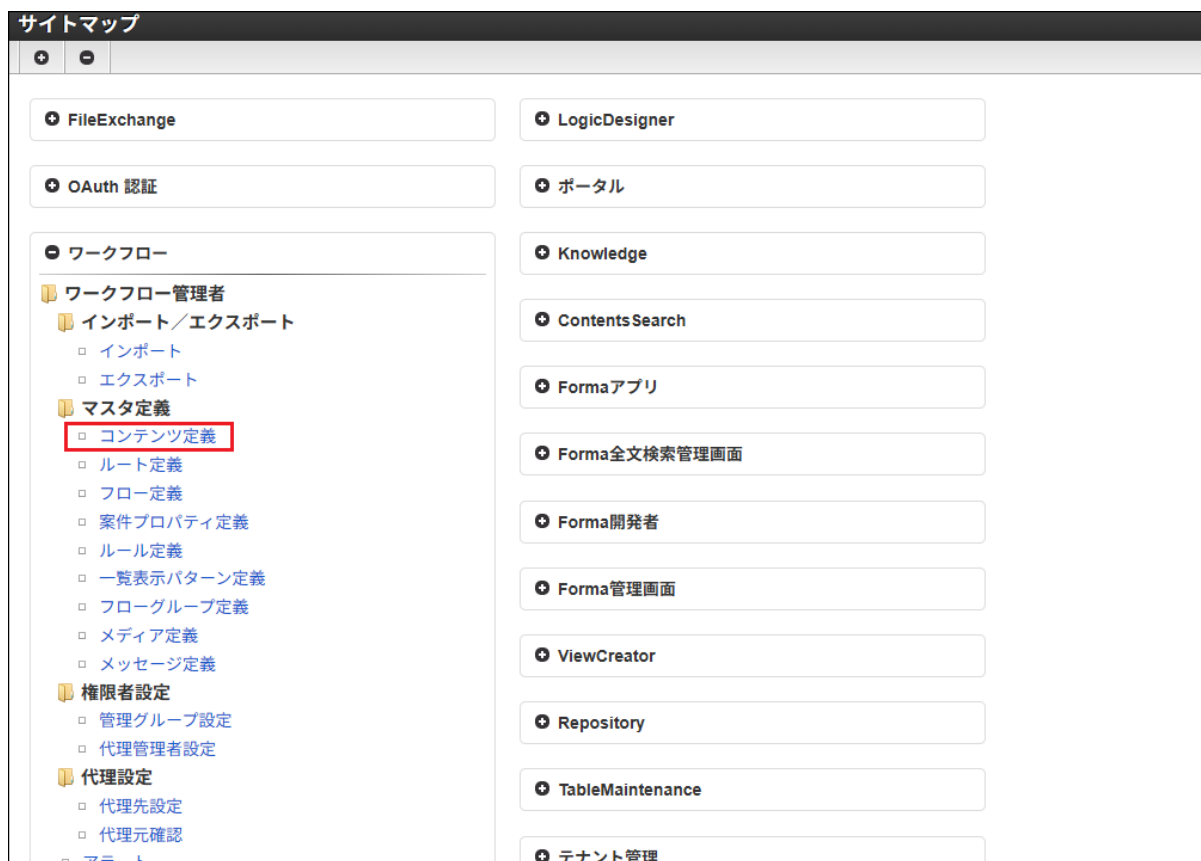


リソース情報が更新されます。



ユーザプログラムを登録する

1. 「サイトマップ」 - 「ワークフロー」 - 「ワークフロー管理者」 - 「マスタ定義」 - 「コンテンツ定義」をクリックします。



2. コンテンツID「htmltopdf_wf_id」の、「編集」アイコンをクリックします。

コンテンツ定義

新規作成 ルート定義 フロー定義 最新情報

コンテンツ名 検索

1-4/4

編集	コンテンツID	コンテンツ名	備考
	contents_javaee	JavaEE開発モデル	
	contents_modal	処理モダル	
	contents_script	スクリプト開発モデル	
	htmltopdf_wf_id	HTML変換(ワークフロー画面)	

1-4/4

3. 「バージョン」タブ-「編集」アイコンをクリックします。

コンテンツ定義 - 編集

戻る 利用状況確認

基本情報 バージョン

新規作成

編集	バージョン期間		備考	有効
	開始	終了		
	2025/11/01	2999/12/31		

4. 「ユーザプログラム」タブ-「新規作成」をクリックします。

コンテンツ定義 - バージョン - 編集

戻る コンテンツコピー バージョンコピー

コンテンツID

コンテンツ名

基本情報 画面 ユーザプログラム メッセージ ルール

新規作成

編集	プログラム名	プラグイン種類	対象ノード	備考	初期使用
	セッション情報削除処理	【アクション処理】スクリプト開発モデル	申請ノード		
	セッション情報削除処理	【アクション処理】スクリプト開発モデル	承認ノード		
	承認アクション処理	【アクション処理】スクリプト開発モデル	承認ノード		
	案件プロパティ設定処理	【アクション処理】スクリプト開発モデル	申請ノード		
	案件プロパティ設定処理	【アクション処理】スクリプト開発モデル	承認ノード		
	申請アクション処理	【アクション処理】スクリプト開発モデル	申請ノード		

5. 次の値を設定し、「登録」をクリックします。

項目名	値
プログラム名	
- 英語	HTML→PDFconvert Approval action process
- 日本語	HTML→PDF変換承認アクション処理
- 中国語	HTML→PDF[]批[]作[]理
プラグイン種別	アクション処理
対象ノード	承認ノード
プラグイン種類	【アクション処理】LogicDesigner
- フロー定義	HTML変換(ワークフロー画面)

項目名	値
初期使用	チェックあり
実行順番	998

コンテンツ定義 -

戻る

コンテンツ

コンテンツID

コンテンツ名

基本情報

画面

新規作成

編集

セッション情報

セッション情報

承認アクション

案件プロパティ

案件プロパティ

申請アクション

ユーザープログラム定義 - 新規作成

閉じる

プログラム名 (必須)

英語

HTML→PDFconvert Approval action process

日本語

HTML→PDF変換承認アクション処理

中国語 (中華人民共和國)

HTML→PDF转换审批动作处理

プラグイン種別 (必須)

アクション処理

対象ノード (必須)

承認ノード

プラグイン種類 (必須)

【アクション処理】 LogicDesigner

フロー選択

フロー定義

HTML変換(ワークフロー画面)

備考

英語

日本語

中国語 (中華人民共和國)

初期使用

☒ フローの初期設定で使用する

実行順番 (必須)

998

登録

備考

初期使用

ユーザープログラムが登録されます。

コンテンツ定義 - バージョン - 編集					
戻る コンテンツコピー バージョンコピー					
コンテンツID	htmltopdf_wf_id				
コンテンツ名	HTML変換(ワークフロー画面)				
基本情報 画面 ユーザープログラム メッセージ ルール					
新規作成					
編集	プログラム名	プラグイン種類	対象ノード	備考	初期使用
	HTML→PDF変換承認アクション処理	【アクション処理】 LogicDesigner	承認ノード		
	セッション情報削除処理	【アクション処理】 スクリプト開発モデル	申請ノード		
	セッション情報削除処理	【アクション処理】 スクリプト開発モデル	承認ノード		
	承認アクション処理	【アクション処理】 スクリプト開発モデル	承認ノード		
	案件プロパティ設定処理	【アクション処理】 スクリプト開発モデル	承認ノード		
	案件プロパティ設定処理	【アクション処理】 スクリプト開発モデル	申請ノード		
	申請アクション処理	【アクション処理】 スクリプト開発モデル	申請ノード		

PDFファイルへの変換

出力先ディレクトリを作成する

< %PUBLIC_STORAGE_PATH% /pdfa/tutorial/htmltopdf/ld/wf >ディレクトリを作成します。

ワークフローを実行する

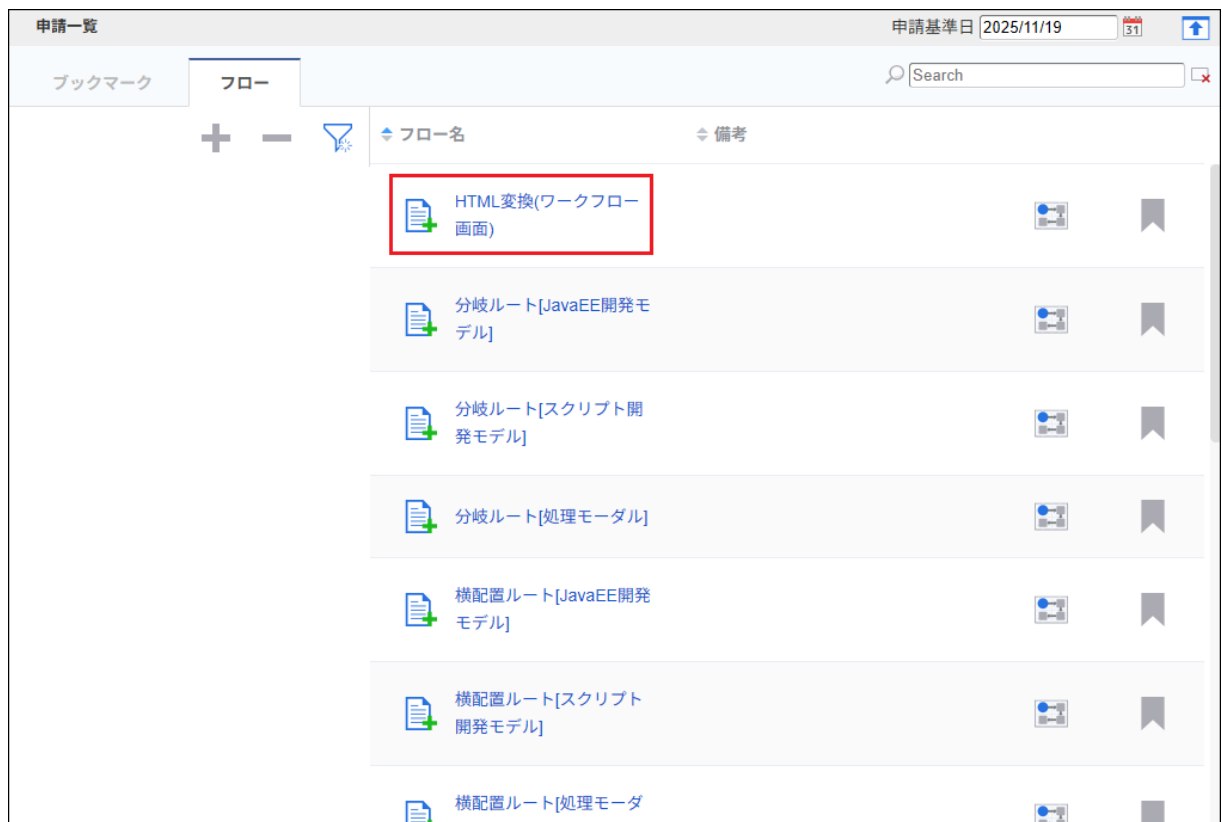
申請する

1. サンプルユーザの「上田辰男」（ユーザコード：ueda パスワード:ueda）で、一般ユーザ画面< http://<HOST>:

2. 「サイトマップ」 - 「ワークフロー」 - 「一覧」 - 「申請一覧」をクリックします。



3. 「フロー」タブ-「HTML変換(ワークフロー画面)」をクリックします。



4. 申請画面が表示されるため、適切な値を入力し、「申請」をクリックします。

立替経費申請書

記入日: 2025/11/19 所属: 開発部

ユーザーID: dev12345 氏名: 上田辰男

申請情報

支払金額: 12,345

支払先: XXXX文房具店

支払目的: XXXXXXXXのため

支払内容: XXXXX (2個): ¥5,000
XXXXX (1個): ¥2,345

申請 一時保存



コラム

エラーが発生した場合は、エラーメッセージの内容に従い入力値の修正等を行ってください。

5. 「申請」をクリックします。

申請 [申請]

フロー

案件名 *	HTML変換(ワークフロー画面)
申請者	上田辰男
申請基準日	2025/11/19
担当組織 *	サンプル課 2 2 ▼
優先度	通常 ▼
+ コメント	
+ 添付ファイル	

申請

6. 「決定」をクリックします。

処理確認

? 申請します。よろしいですか?

決定 取り消し

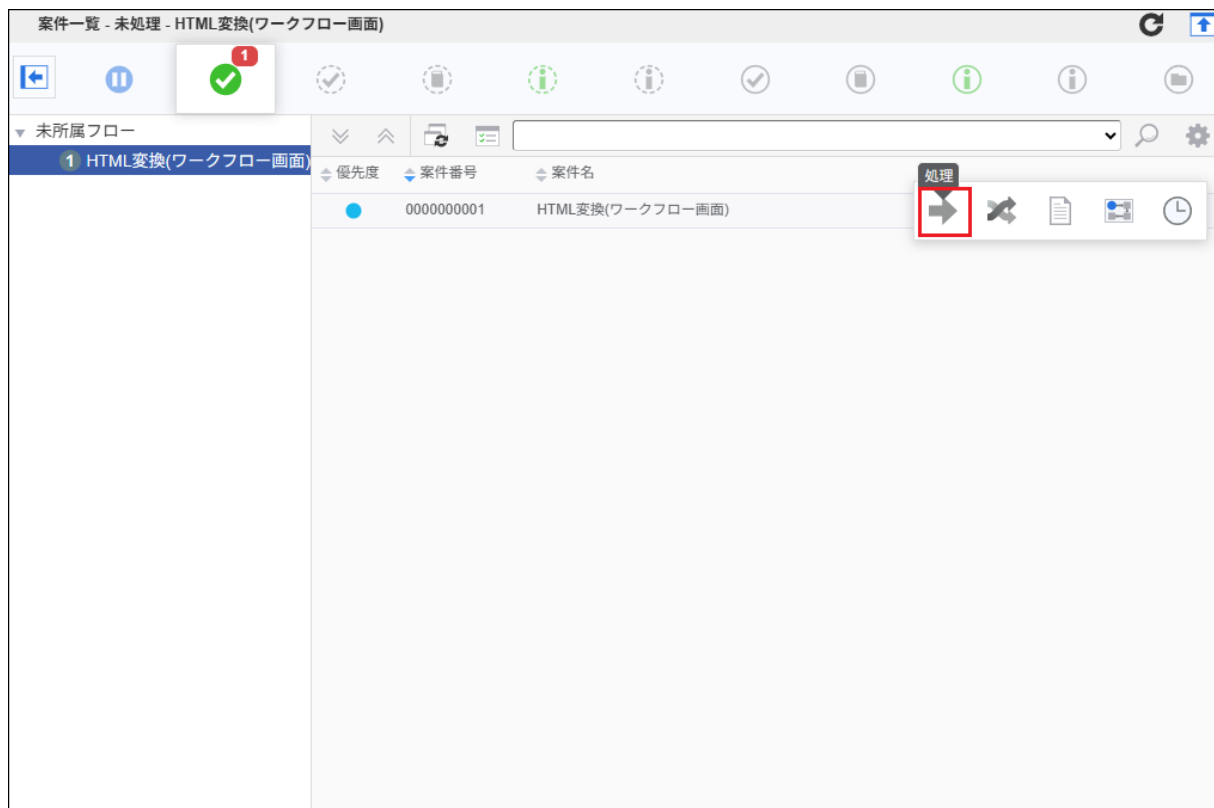
承認する

1. サンプルユーザの「青柳辰巳」(ユーザコード: aoyagi パスワード: aoyagi) で、一般ユーザ画面< http://<HOST>:

2. 「サイトマップ」 - 「ワークフロー」 - 「一覧」 - 「案件一覧」をクリックします。



3. 「未処理」タブの一覧から、「申請する」で申請した案件を選択し、「処理」アイコンをクリックします。



4. 承認画面が表示されるため、「承認」をクリックします。

立替経費申請書

記入日: 2025/11/19 所属: 開発部

ユーザーID: dev12345 氏名: 上田辰男

申請情報

支払金額: 12,345

支払先: XXXX文房具店

支払目的: XXXXXXXXのため

支払内容: XXXXX (2個): ¥5,000
XXXXX (1個): ¥2,345

承認

5. 「承認」をクリックします。

処理 [承認]

フロー 履歴

処理種別 * 承認

案件番号 0000000001

案件名 HTML変換(ワークフロー画面)

申請情報

申請者	上田辰男
申請基準日	2025/11/19
申請日	2025/11/19

処理者 * 青柳辰巳

担当組織 * サンプル課 1 1

+ コメント

承認

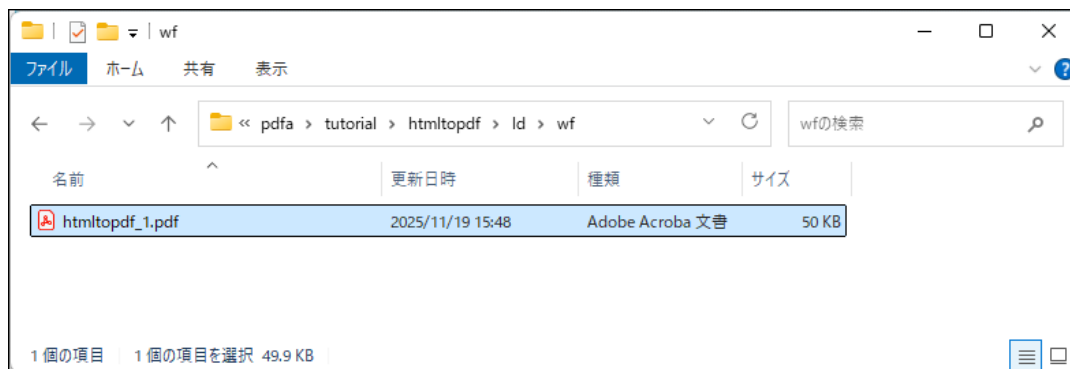
6. 「決定」をクリックします。

処理確認

? 承認します。よろしいですか?

決定 取り消し

プログラムが実行され、< %PUBLIC_STORAGE_PATH% /pdfa/tutorial/htmltopdf/ld/wf >にPDFファイルが出力されます。



i コラム

エラーが発生した場合は、「ジョブネットモニタ詳細」画面のエラーメッセージや、例外ログの内容に従いファイルの修正等を行ってください。

ジョブネットモニタ詳細

←

モニタ詳細 (intra-martAPP: :52001763455073272)

ジョブネット	convertWorkflowScreen (convert-workflow-screen-jobnet)
トリガ	即時実行 (MT_2mkgruhohmlp)
ステータス	エラー
開始日	2025/11/18 17:38:29
終了日	2025/11/18 17:38:37
メッセージ	

更新

タスク一覧

タスクID	ジョブ	ステータス	開始日	終了日	メッセージ
0	convertWorkflowScreenPa	成功	2025/11/18 17:38:29	2025/11/18 17:38:29	success
1	convertWorkflowScreenNo	エラー	2025/11/18 17:38:29	2025/11/18 17:38:37	サーバ接続時にエラーが発生しました。[メッセージ：C

実行中パラメータ

再実行

- 出力されたPDFファイルをPDFビューア（Adobe Acrobat Reader など）で開き、正しく表示されることを確認します。

メニュー ホーム ☆ htmltopdf_1.pdf (保護) × + 作成 ログイン

すべてのツール 編集 変換 電子サイン テキストまたはツールを検索 Q | 共有 AI アシスタントに質問

立替経費申請書

記入日: 2025/11/19 所属: 開発部

ユーザーID: dev12345 氏名: 上田辰男

申請情報

支払金額: 12,345

支払先: XXXX文房具店

支払目的: XXXXXXXXのため

支払内容: XXXXXX (2個) : ¥5,000
XXXXXXXX (1個) : ¥2,345



コラム

PDFファイルのパスワードは、次の通りです。

- オープンパスワード: 「open」
- セキュリティパスワード: 「security」